

令和5年度 第1回 八千代市地域公共交通会議

日 時 令和5年6月29日(木)
午前10時00分～

場 所 八千代市役所 多目的棟会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 議 題 八千代市地域公共交通計画の策定について
- 3 その他
- 4 閉 会

【配布資料】

- ・ 令和5年度第1回八千代市地域公共交通会議次第
- ・ 八千代市地域公共交通会議委員名簿
- ・ 座席表
- ・ 資料1 八千代市地域公共交通計画骨子案（事前送付）
- ・ 資料2 市民アンケート調査等の結果について（事前送付）
- ・ 資料3 地域公共交通計画に係る事業の方向性について

八千代市地域公共交通会議委員名簿

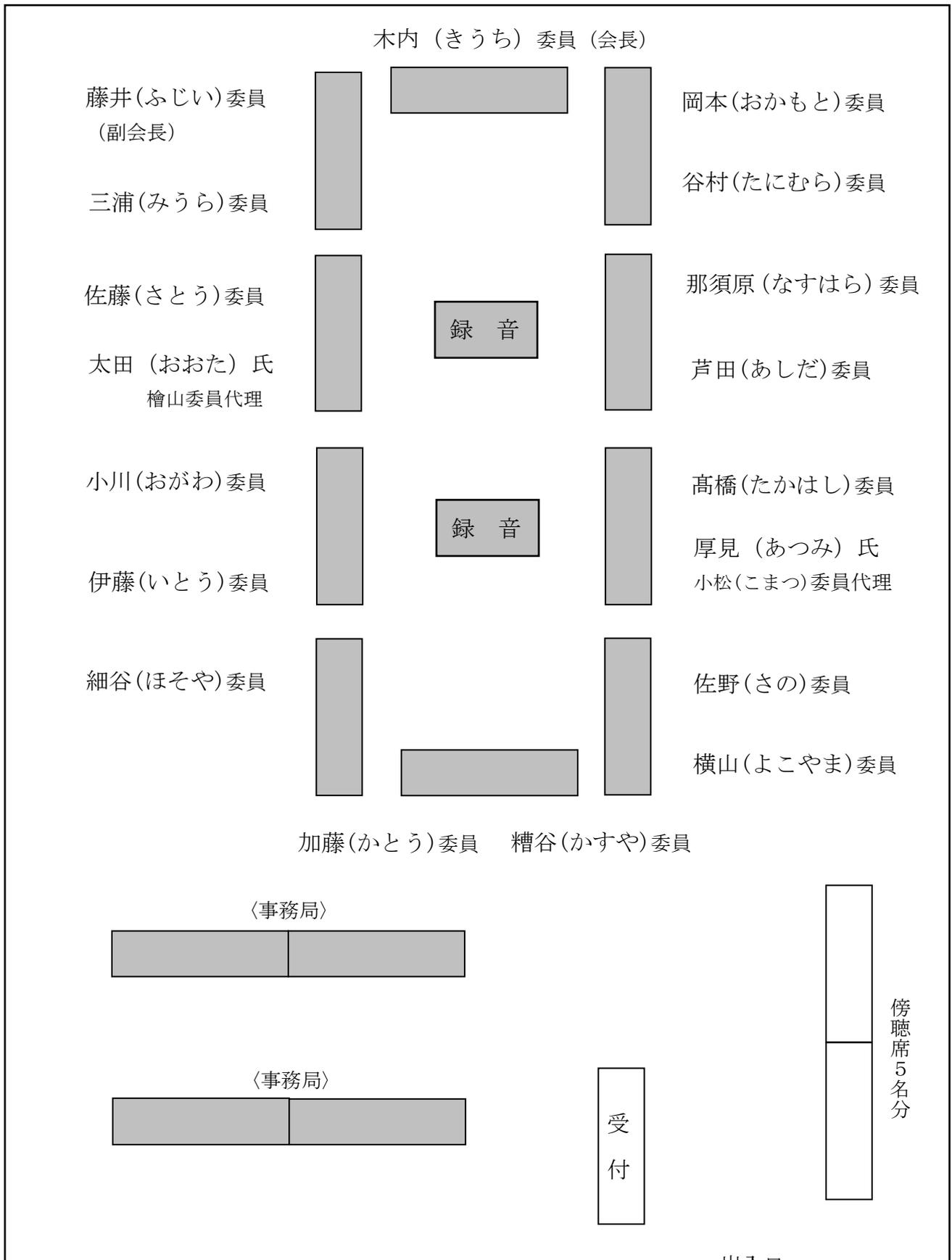
NO	区分	氏名	職名
1	1号委員	木内 健策	八千代市都市整備部長
2	2号委員	三浦 裕樹	京成バス株式会社営業部長
3		中村 啓介	船橋新京成バス株式会社取締役営業部長
4		佐藤 克己	千葉内陸バス株式会社代表取締役社長
5		檜山 雅紀	ちばレインボーバス株式会社代表取締役社長
6		小川 光春	東洋バス株式会社取締役業務部長
7	3号委員	成田 斉	一般社団法人千葉県バス協会専務理事
8	4号委員	岡本 憲始	公募市民
9		谷村 勝	公募市民
10		那須原 和良	公募市民
11		芦田 文夫	公募市民
12	5号委員	高橋 直人	関東運輸局千葉運輸支局首席運輸企画専門官
13	6号委員	伊藤 淳	京成バス労働組合長沼分会分会長
14	7号委員	小松 直人	千葉県総合企画部交通計画課企画調整班長
15	8号委員	佐野 明	八千代警察署交通課長
16	9号委員	横山 孝徳	千葉土木事務所維持課長
17	10号委員	藤井 敬宏	日本大学理工学部特任教授
18	11号委員	細谷 清	千葉県タクシー協会京葉支部事務局長
19	12号委員	加藤 博士	八千代市経済環境部長
20		糟谷 龍郎	八千代市健康福祉部長

任期: 令和7年(2025年)1月31日まで

令和5年度第1回八千代市地域公共交通会議 座席表

日時：令和5年6月29日（木） 午前10時～

会場：市役所多目的棟会議室



八千代市地域公共交通計画 骨子案

【 現状の整理 】

1. はじめに

- (1) 背景・目的
- (2) 計画区域…八千代市全域
- (3) 計画期間…令和6～10年度
- (4) 計画の位置づけ…上位・関連計画との関係

2. 八千代市の現状

- (1) 位置及び地勢
- (2) 人口及び世帯数…八千代市人口ビジョン等
- (3) 代表交通手段…国勢調査等
- (4) 道路網…都市マスタープラン等
- (5) 運転免許証保有状況
- (6) 通勤・通学流動
- (7) 市内主要施設…商業施設, 医療施設, 公共施設等
- (8) 観光動向

3. 公共交通の現状

- (1) 市内公共交通の概況
- (2) 市内公共交通の運行状況
- (3) 鉄道の状況
- (4) 路線バスの状況
- (5) コミュニティバスの状況
- (6) タクシーの状況
- (7) 公共交通以外の移動支援サービス
 - ・障害者等タクシー利用助成事業の概要
 - ・高齢者外出支援事業の概要
 - ・通学支援バス
 - ・その他送迎サービス

4. 上位・関連計画における地域公共交通の位置づけ

- (1) 八千代市第5次総合計画
- (2) 八千代市都市マスタープラン
- (3) 八千代市地域福祉活動計画等



【 ニーズ把握と課題の整理 】

5. 意向調査

- (1) 市民アンケート調査
 - 調査概要
 - ①日常生活における移動手段
 - ②運転免許証返納意向
 - ③鉄道利用
 - ④路線バス利用
 - ⑤コミュニティバス(八千代台コース)利用
 - ⑥タクシー利用
 - ⑦外出における困りごと
 - ⑧八千代市地域公共交通の方向性
- (2) 北部地域住民アンケート調査
 - 調査概要
 - ①買い物時の移動
 - ②通院時の移動
 - ③買い物・通院のためのバスを導入した際の利用意向
 - ④高齢者外出支援事業のサービス拡大について
 - ⑤新しい移動手段の導入
- (3) 公共交通利用者アンケート調査
 - 調査概要
 - ①鉄道利用者アンケート調査
 - ②路線バス利用者アンケート調査
 - ③タクシー利用者アンケート調査
- (4) 交通事業者・関連事業者アンケート調査等

6. 地域公共交通の課題

- (1) 現状把握に伴う課題の抽出
- (2) 課題の整理



【 基本方針・目標・実施事業等 】

7. 地域公共交通に係る基本方針

- (1) 基本理念
- (2) 基本方針
- (3) 地域公共交通の機能分担
- (4) 将来ネットワークイメージ

8. 計画の目標

- (1) 目標の設定
- (2) 評価指標

9. 実施事業及び実施主体

- (1) 計画の目標を踏まえた実施事業
- (2) 実施事業の内容

10. 計画の達成状況の評価

- (1) 計画の実施及び進行管理の体制
- (2) PDCAサイクルによる推進
- (3) 評価方法及びスケジュール

市民アンケート調査等の結果について

(1)市民アンケート調査

■調査概要

対象者	・15歳以上の市民2,500人(無作為抽出)						
主な調査項目	・属性(居住地, 年齢, 職業, 運転免許証保有状況及び運転免許証返納意向) ・日常生活の移動実態, 生活利便施設の利用実態と意識・要望 ・公共交通の利用実態と意識・要望, 公共交通の維持・確保の意向						
調査方法	・郵送による配布・回収(料金受取人払い), Webによる回答を併用						
調査期間	・令和5年4月10日(月)~4月28日(金)						
回答数	・N=1,000(回収率40.0%) 《速報値》						
内訳	属性		実数	割合	属性		
	性別	男性	426	42.6(%)	女性	566	56.6(%)
		その他	1	0.1(%)	無回答	7	0.7(%)
	年齢	10歳代	40	4.0(%)	20歳代	68	6.8(%)
		30歳代	102	10.2(%)	40歳代	156	15.6(%)
		50歳代	193	19.3(%)	60~64歳	66	6.6(%)
		65~69歳	74	7.4(%)	70歳代	186	18.6(%)
		80歳代以上	113	11.3(%)	無回答	2	0.2(%)
	職業	会社員・公務員	327	32.7(%)	自営業	43	4.3(%)
		農林水産業	7	0.7(%)	学生	50	5.0(%)
		専業主婦(夫)	134	13.4(%)	パート・アルバイト	160	16.0(%)
		無職(年金生活含む)	263	26.3(%)	その他	14	1.4(%)
		無回答	2	0.2(%)			
	地区	睦エリア	21	2.1(%)	阿蘇エリア	37	3.7(%)
		緑が丘・中央エリア	365	36.5(%)	村上エリア	162	16.2(%)
		高津・八千代台エリア	299	29.9(%)	勝田台エリア	102	10.2(%)
		無回答	14	1.4(%)			

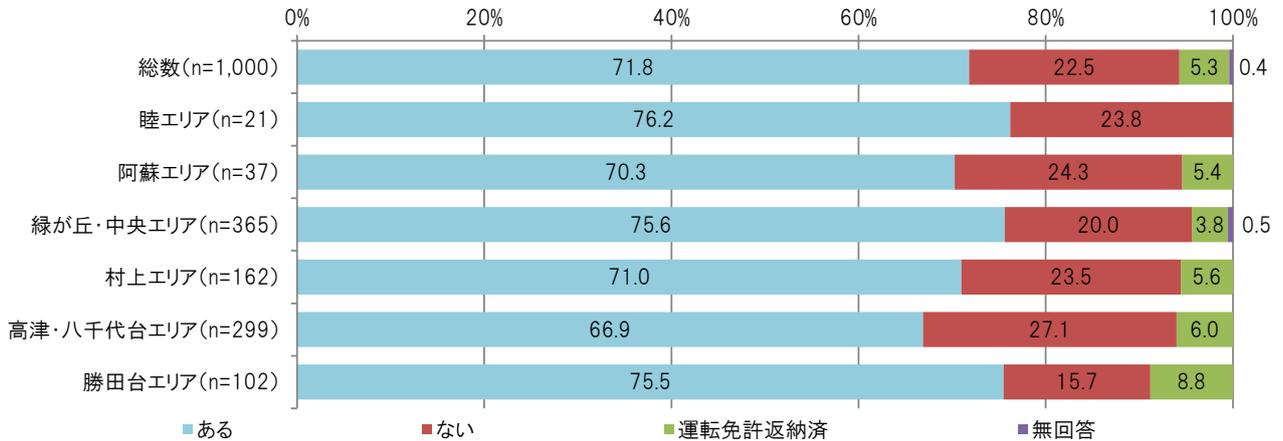
The map shows the geographical distribution of the survey areas. The areas are color-coded: Mutsu (睦) in red, Aso (阿蘇) in olive green, Murakami (村上) in dark green, Katsurida (勝田台) in light blue, Takatsuki (高津) in teal, and Ryugasaki (緑が丘・中央) in yellow. Arrows point from the area names in dashed boxes to their respective locations on the map.

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため, 合計値が100%とならない場合があります。

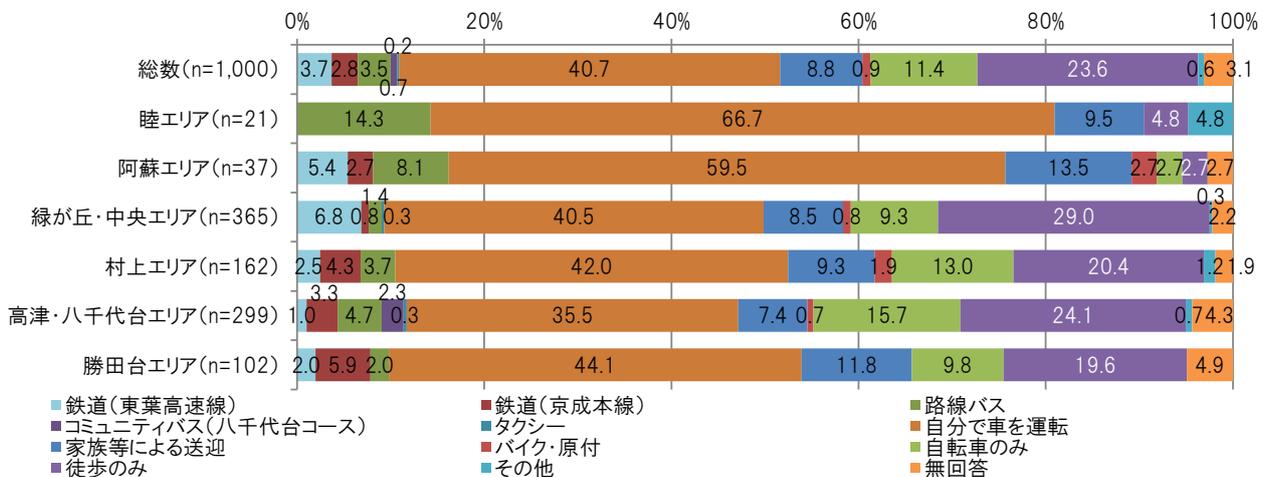
①日常生活における移動手段

- 運転免許証保有率は71.8%で、「免許なし」、「運転免許返納済」は合わせて27.8%となっています。
- 日常の買い物時の移動手段として40.7%の方が「自分で車を運転」と回答しており、「家族等による送迎」も含めると5割近い方が自家用車による移動となっています。
- 通院時の移動手段としても自家用車による移動が主な交通手段であります。鉄道や路線バス等の公共交通機関を利用する割合が2割程度と、買い物時の選択率よりも高く、比較的免許保有率の低い高津・八千代台エリアにおいて多い傾向にあります。
- 買い物時・通院時ともに睦エリア、阿蘇エリアで自家用車による移動の割合が高くなっています。

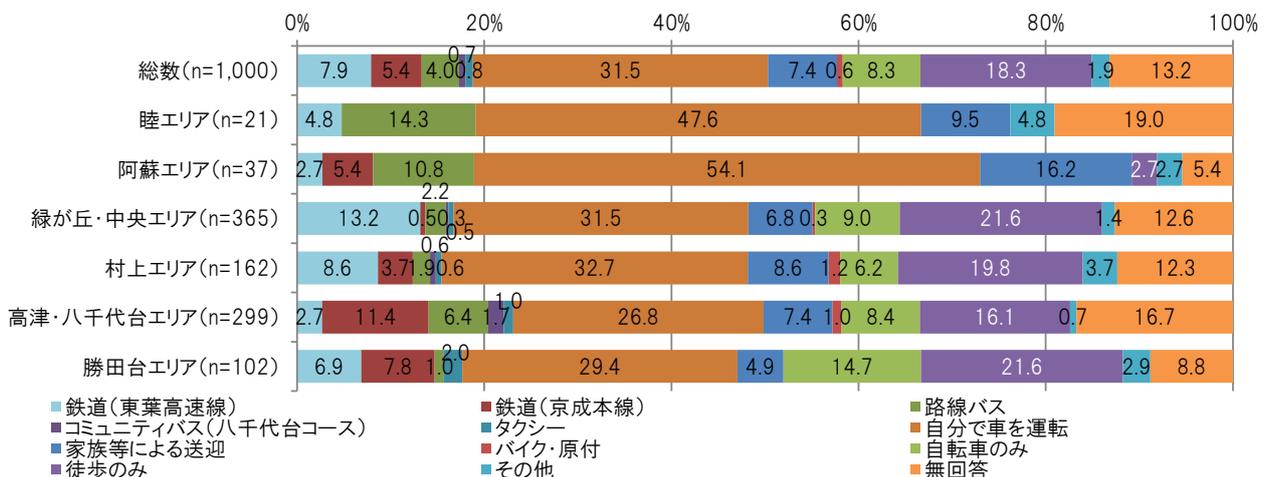
■運転免許証保有率



■買い物時の主な交通手段



■通院時の主な交通手段



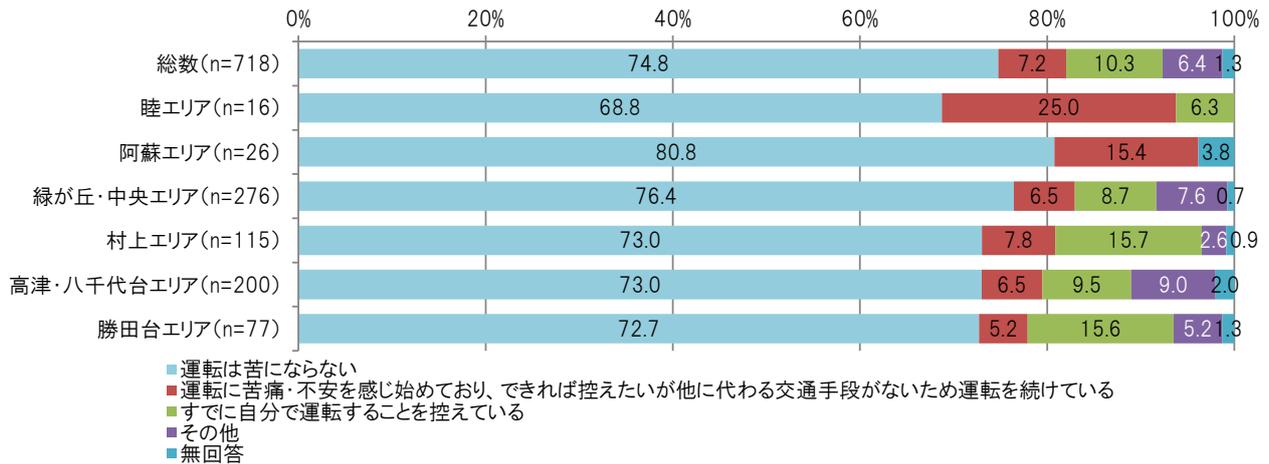
②運転免許証返納意向

○運転免許証保有者の意識として「運転に苦痛・不安を感じ始めており、できれば控えたいが他に代わる交通手段がない」との回答が7.2%であり、他の移動手段を使いたくても使えない方が一定数存在しています。

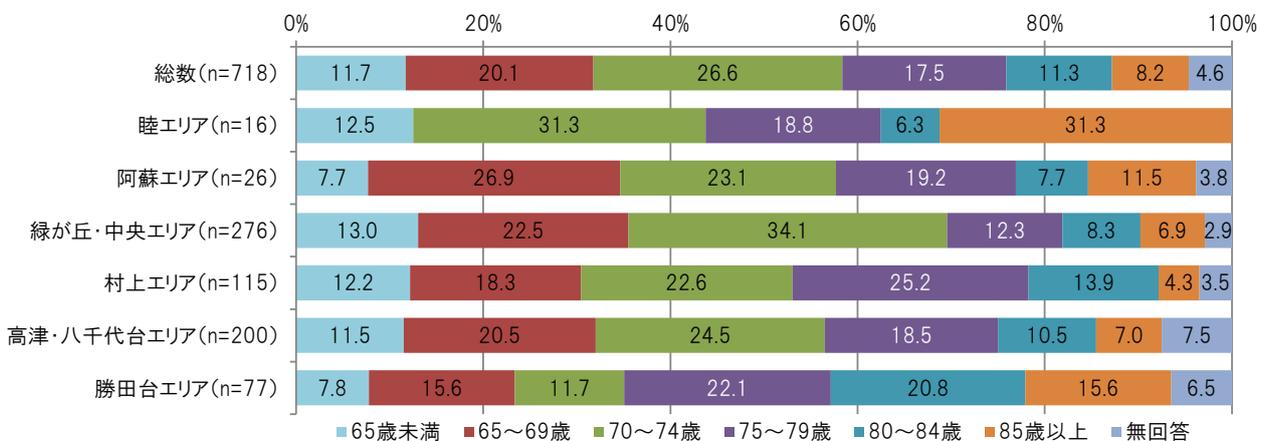
○運転可能年齢では70歳以上まで運転できるとの回答が多くなっており、比較的勝田台エリアで高齢になっても運転を望んでいる傾向にあります。

○しかしながら、将来的な運転免許証返納意向が74.4%存在していることから、今後の公共交通サービスの維持・向上が重要と考えられます。

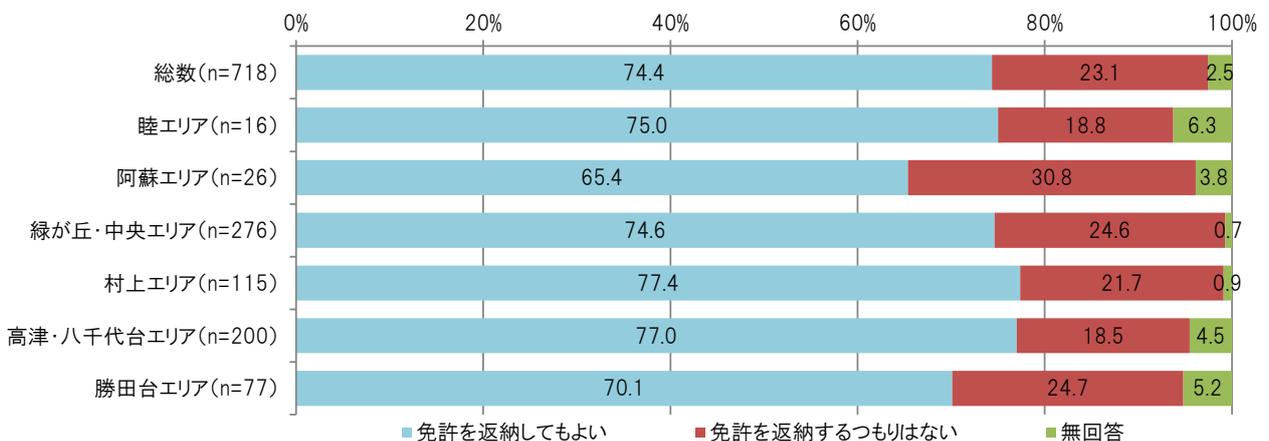
■運転に関する考え



■何歳まで運転が可能と思っているか



■将来的な運転免許証返納意向



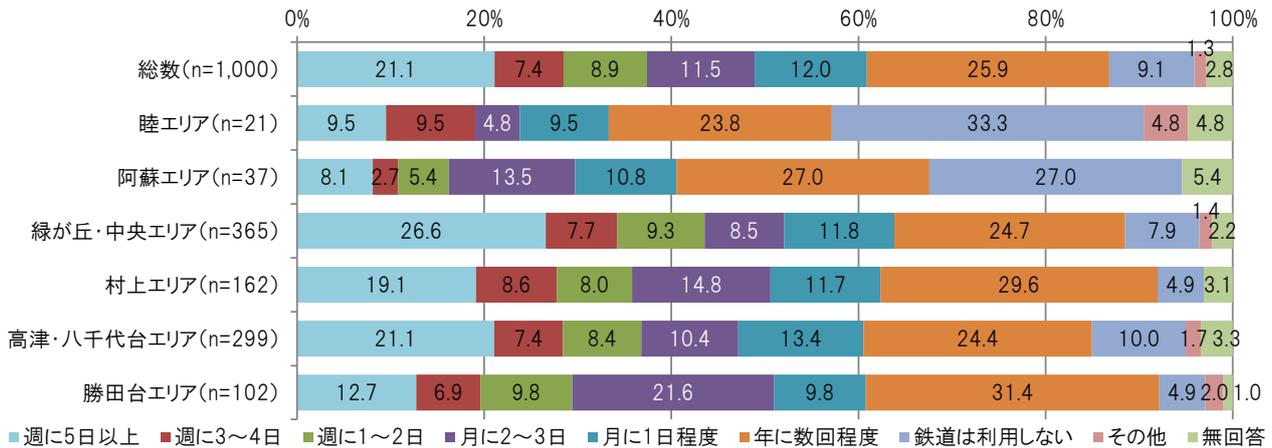
③鉄道利用

○週に1回以上、日常的に鉄道を利用している方は全体の37.4%と、八千代緑が丘駅及び八千代中央駅が立地する緑が丘・中央エリアで比較的多く利用されていますが、鉄道駅から離れた睦エリア・阿蘇エリアでは利用率が低くなっています。

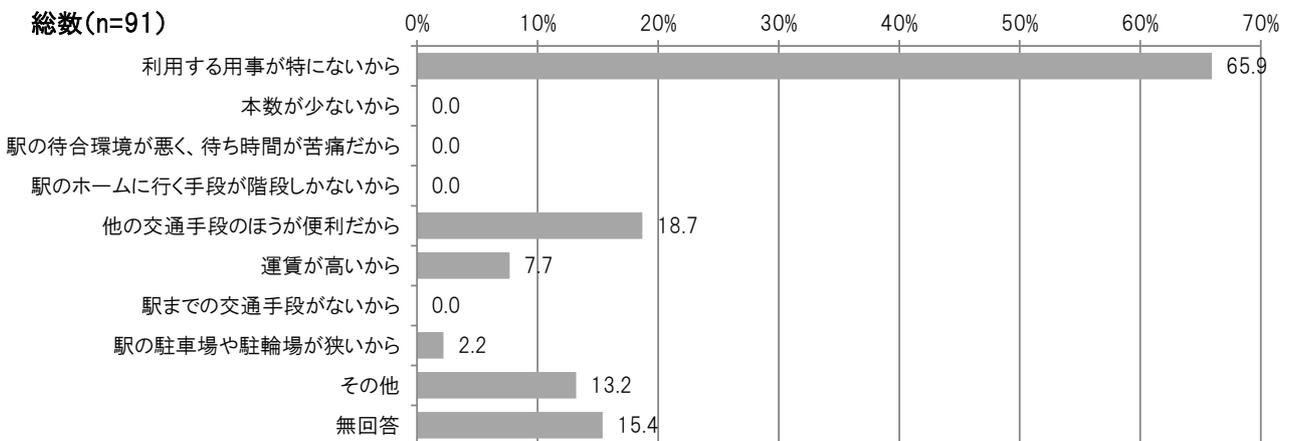
○利用しない理由として、「利用する用事が特にないから」が65.9%と大半を占めており、次いで「他の交通手段が便利だから」が18.7%となっています。

○比較的満足度の高い項目としては、「運行時間の正確さ」で高い数値を示しており、満足度の低い項目では「運賃」「駅周辺での駐車場の確保のしやすさ」で高い数値となっています。

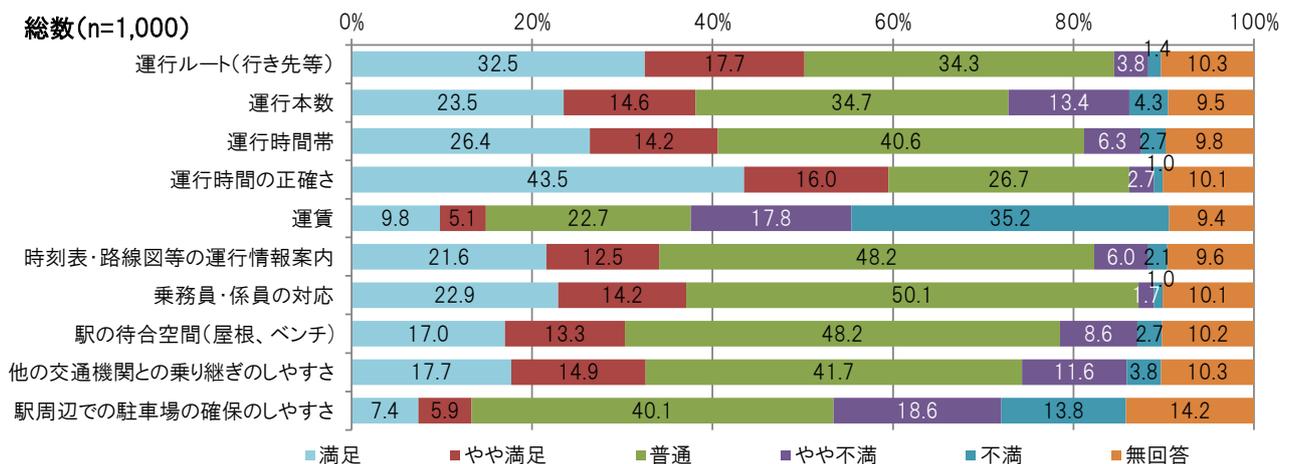
■利用率



■利用しない理由



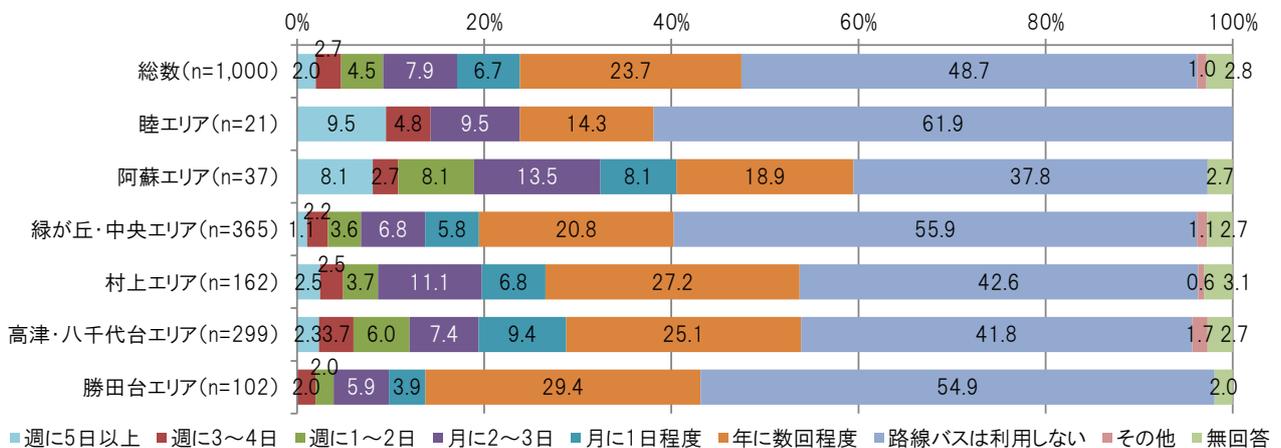
■満足度



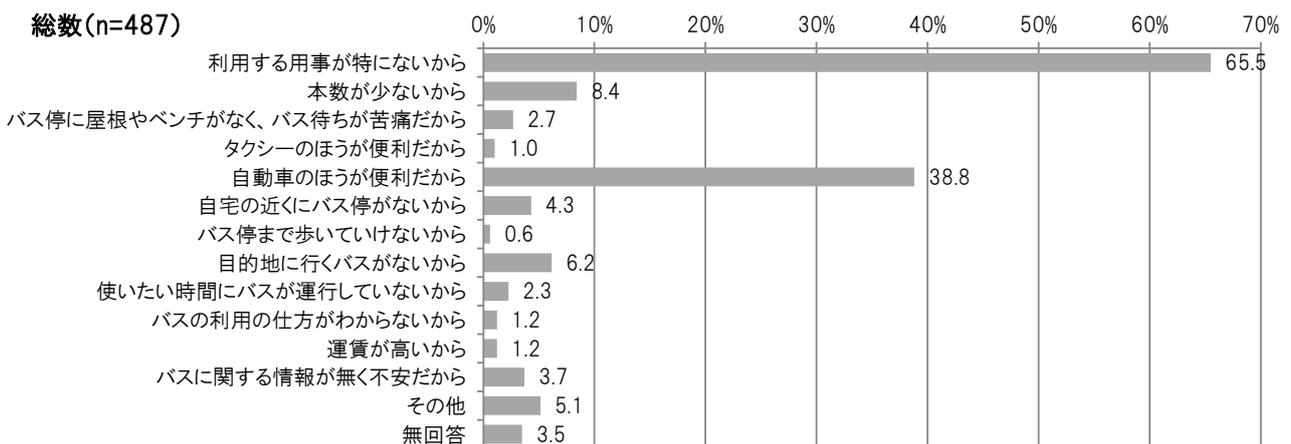
④路線バス利用

- 週に1回以上、日常的に路線バスを利用している方は全体の9.2%と少なく、「路線バスは利用しない」との回答が約半数を占めておりますが、鉄道駅から離れた睦エリア・阿蘇エリアでは、他のエリアより比較的使用率が高い傾向にあります。
- 利用しない理由として、「利用する用事が特にないから」が65.5%と大半を占めており、次いで「自動車のほうが便利だから」が38.8%となっています。
- 利用条件としても「運転ができなくなってから」が56.3%と大半を占めていますが、次いで「フリー乗車券のようなサービスが導入されたら」が17.0%、「近所へのバス停設置・送迎等、バス停までの移動が楽になったら」が12.3%となっています。
- 比較的満足度の高い項目としては、「バス停までの距離」「運行ルート(行き先等)」「乗務員の対応」で高い数値を示しており、満足度の低い項目では「運行本数」「バス停留所の待合空間(屋根,ベンチ)」で高い数値となっています。

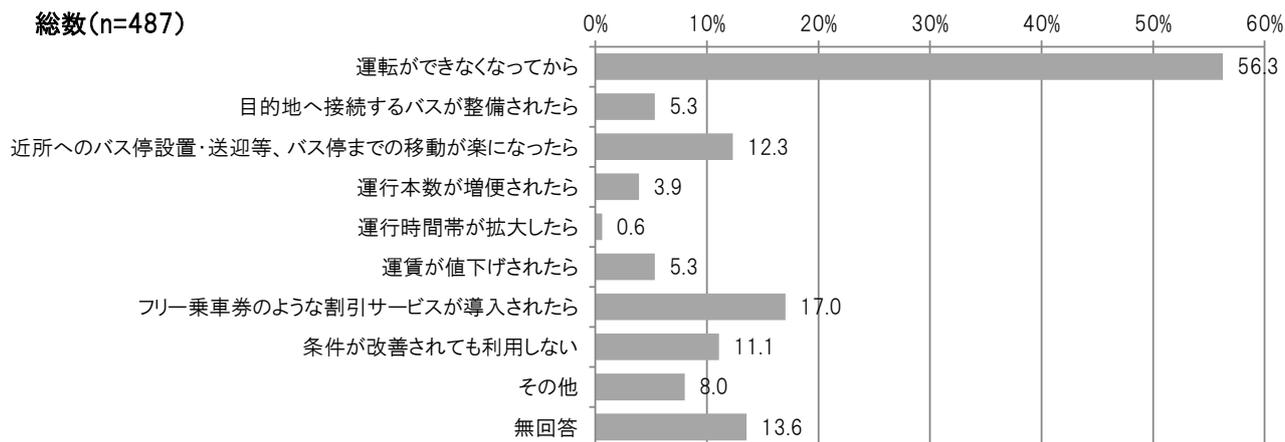
■利用率



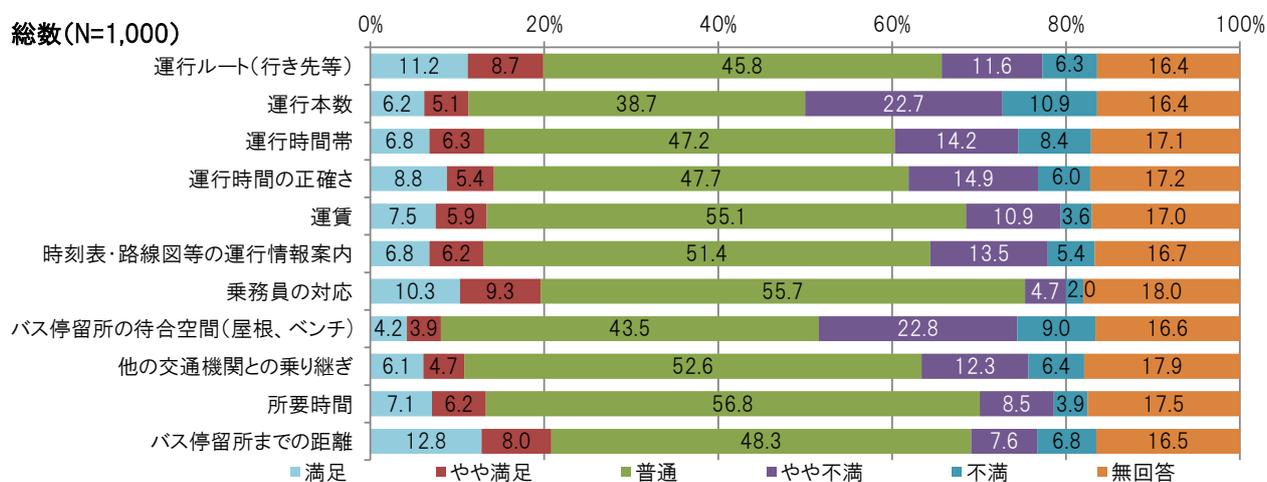
■利用しない理由



■ 利用するための条件



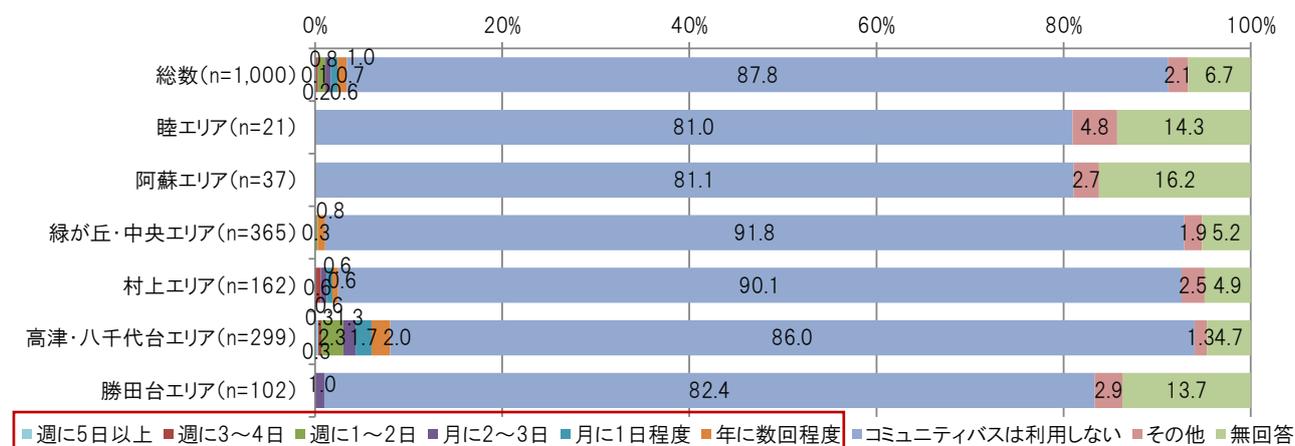
■ 満足度



⑤コミュニティバス(八千代台コース)利用

- 週に1回以上、日常的にコミュニティバスを利用している方は全体の1.1%で、運行エリアである高津・八千代台エリアでは3.0%となっており、村上エリアと緑が丘・中央エリアでも少しばかり利用がみられます。
- 高津・八千代台エリアに在住する方における利用しない理由としては、「利用する用事が特にないから」が67.3%と大半を占めており、次いで「自動車のほうが便利だから」が21.0%となっています。
- 利用条件としても「運転ができなくなってから」が42.2%と大半を占めていますが、次いで「近所へのバス停設置・送迎等、バス停までの移動が楽になったら」が22.2%、「目的地へ接続するバスが整備されたら」が11.7%となっています。
- 比較的満足度の高い項目としては、「乗務員の対応」「運賃」「バス停留所までの距離」で高い数値を示しており、満足度の低い項目では「運行本数」「運行ルート(行き先)」で高い数値となっています。

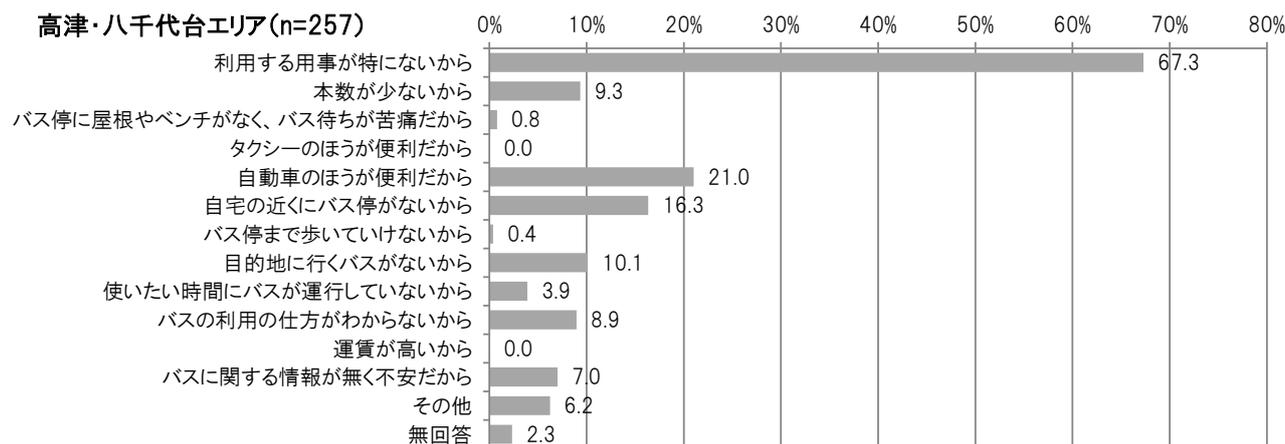
■利用率



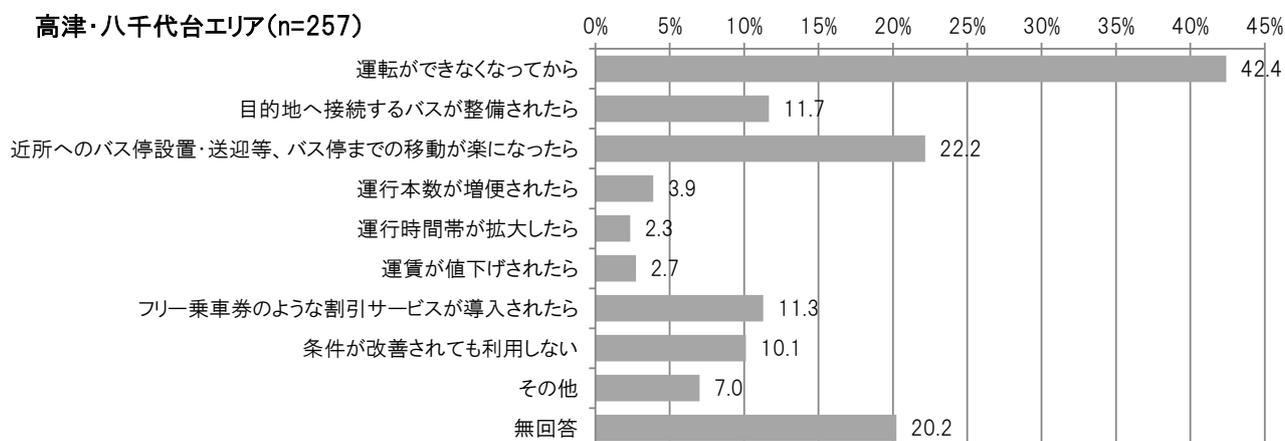
(利用率の内訳)

	週に5日以上	週に3~4日	週に1~2日	月に2~3日	月に1日程度	年に数回程度
総数 (n=1,000)	0.1	0.2	0.8	0.6	0.7	1.0
睦エリア (n=21)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
阿蘇エリア (n=37)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
緑が丘・中央エリア (n=365)	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.8
村上エリア (n=162)	0.0	0.6	0.0	0.6	0.6	0.6
高津・八千代台エリア (n=299)	0.3	0.3	2.3	1.3	1.7	2.0
勝田台エリア (n=102)	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0

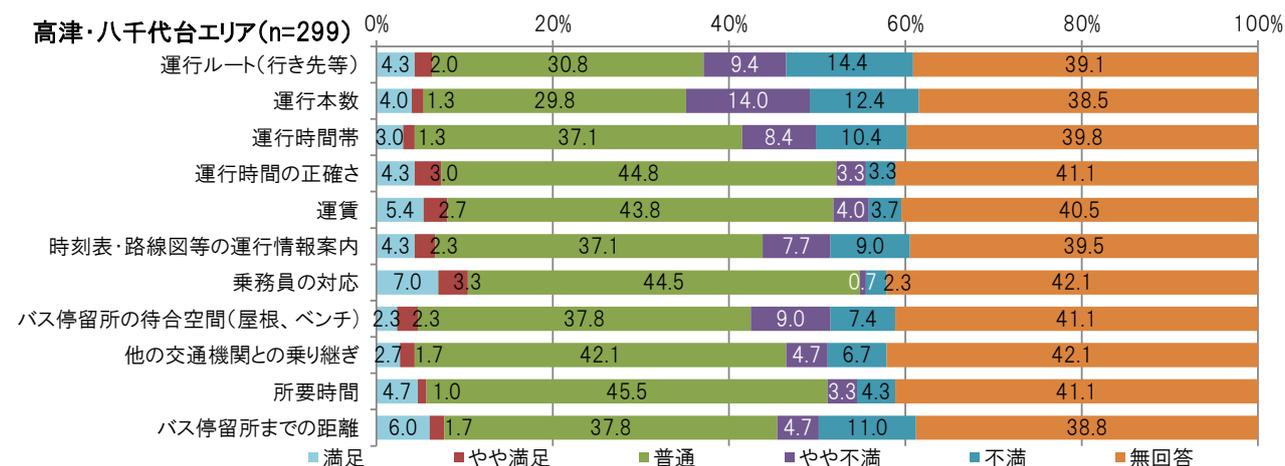
■ 利用しない理由(高津・八千代台エリア)



■ 利用するための条件(高津・八千代台エリア)



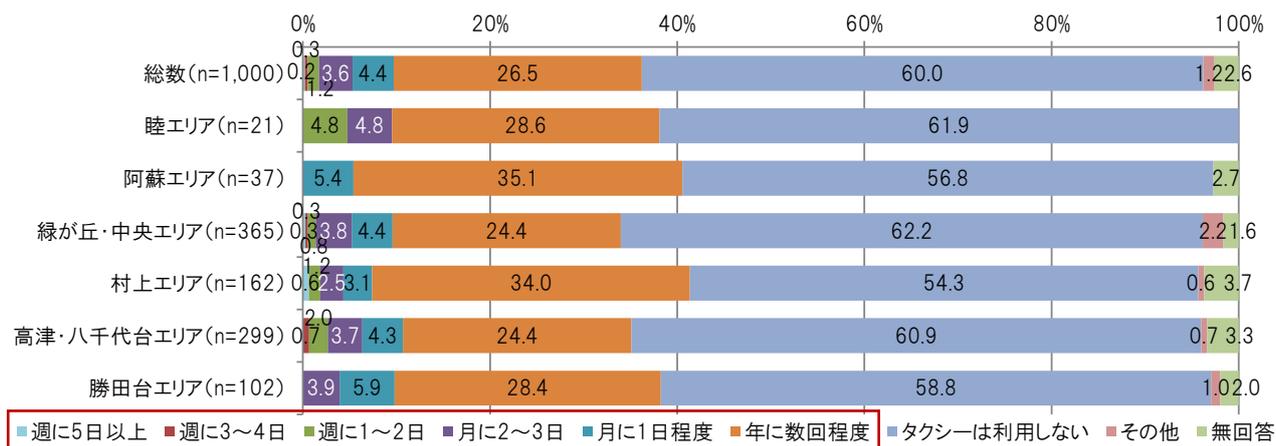
■ 満足度(高津・八千代台エリア)



⑥タクシー利用

- 週に1回以上、日常的にタクシーを利用している方は全体の1.7%と非常に少ない傾向にあります。
- 利用率としては、阿蘇エリア、村上エリアで比較的高い傾向にあります。
- 利用しない理由として、「タクシーを利用する用事が特にないから」が65.2%と大半を占めており、次いで「料金が高いから」が32.8%、「自動車のほうが便利だから」が31.5%となっています。
- 比較的満足度の高い項目としては、「目的地到着までの速さ」「車両の乗り心地・乗り降りのしやすさ」で高い数値を示しており、満足度の低い項目では「運賃」で高い数値となっています。

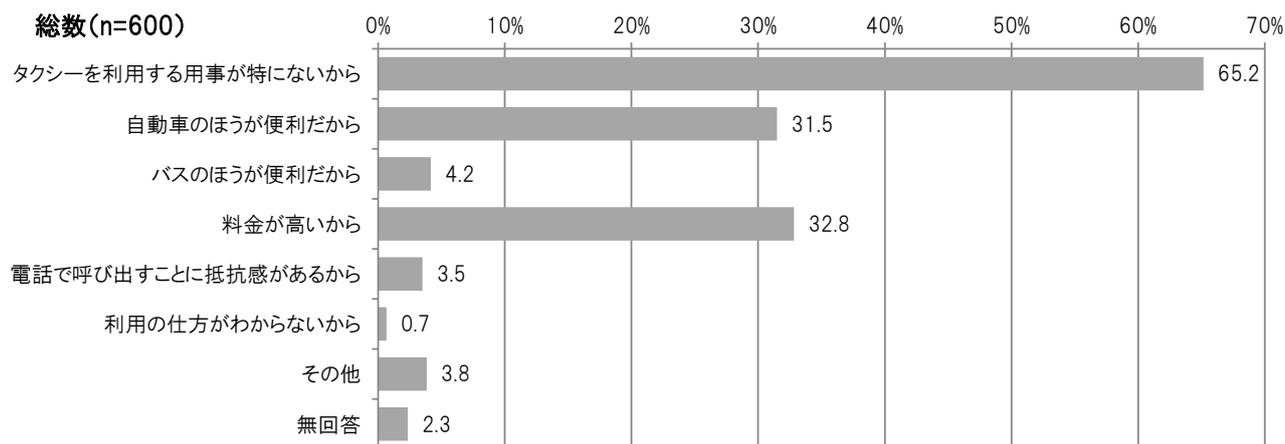
■利用率



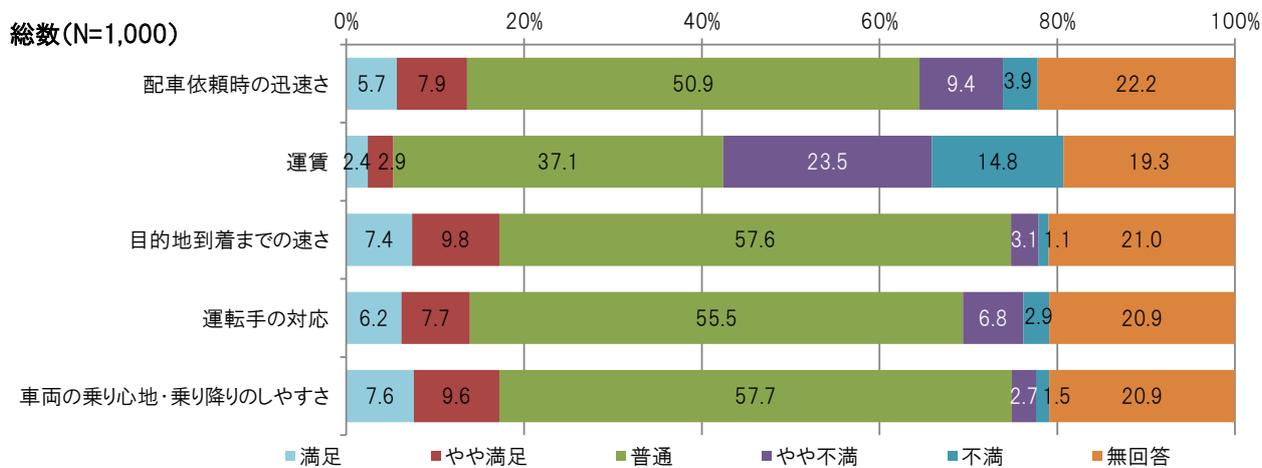
(利用率の内訳)

	週に5日以上	週に3~4日	週に1~2日	月に2~3日	月に1日程度	年に数回程度
総数(n=1,000)	0.2	0.3	1.2	3.6	4.4	26.5
睦エリア(n=21)	0.0	0.0	4.8	4.8	0.0	28.6
阿蘇エリア(n=37)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	35.1
緑が丘・中央エリア(n=365)	0.3	0.3	0.8	3.8	4.4	24.4
村上エリア(n=162)	0.6	0.0	1.2	2.5	3.1	34.0
高津・八千代台エリア(n=299)	0.0	0.7	2.0	3.7	4.3	24.4
勝田台エリア(n=102)	0.0	0.0	0.0	3.9	5.9	28.4

■ 利用しない理由



■ 満足度



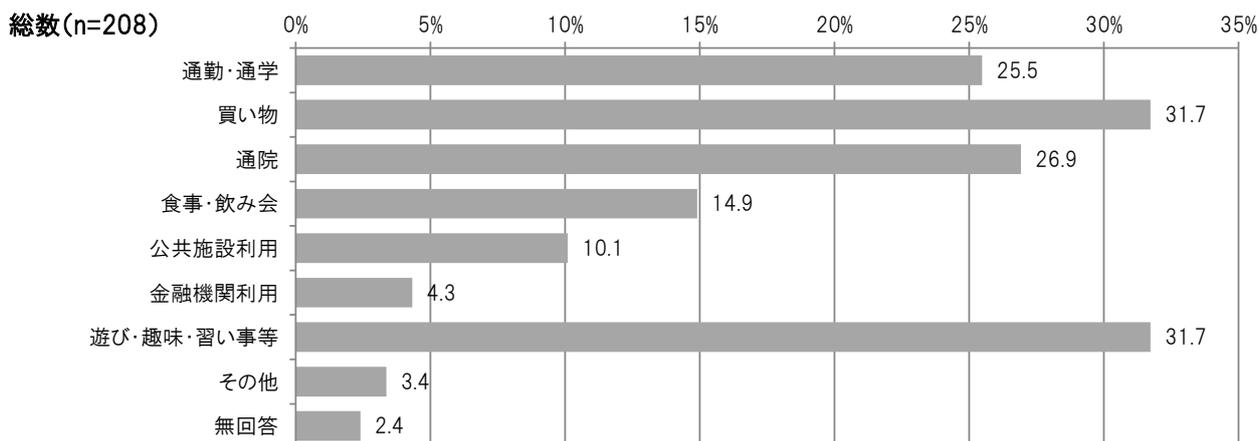
⑦外出における困りごと

○外出時に交通手段がなく困ることがあると答えた208人(全体の20.8%)のうち、困る外出行動では「買い物」と「遊び・趣味・習い事等」が31.7%と最も多く、次いで「通院」が26.9%と他の項目に比べて高い数値を示しています。

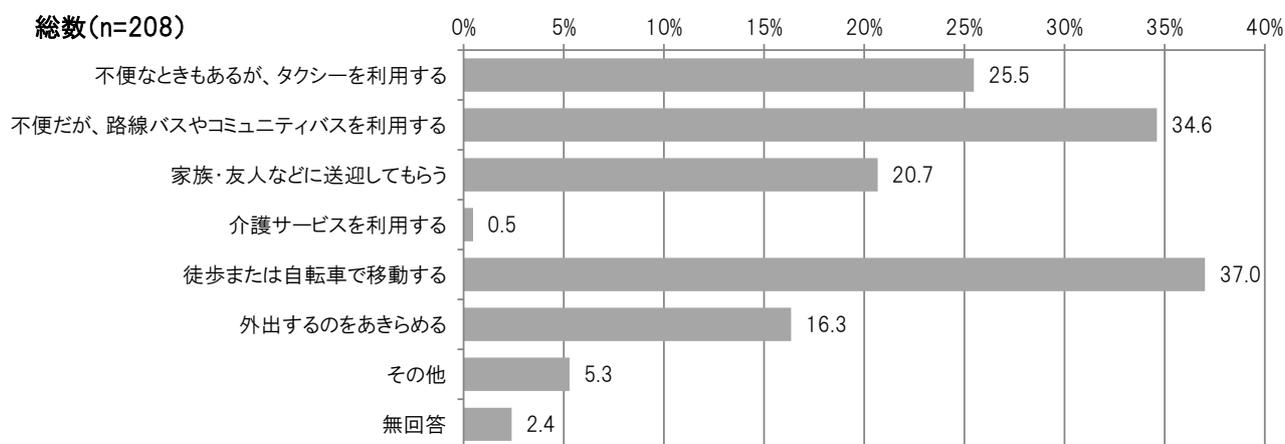
○交通手段がなく困る際の対処法としては、「徒歩または自転車で移動する」が37.0%と最も多く、次いで「不便だが、路線バスやコミュニティバスを利用する」が34.6%となっています。

○また、「外出をあきらめる」と回答した方も 16.3%存在しています。

■外出時に困る目的



■対処法

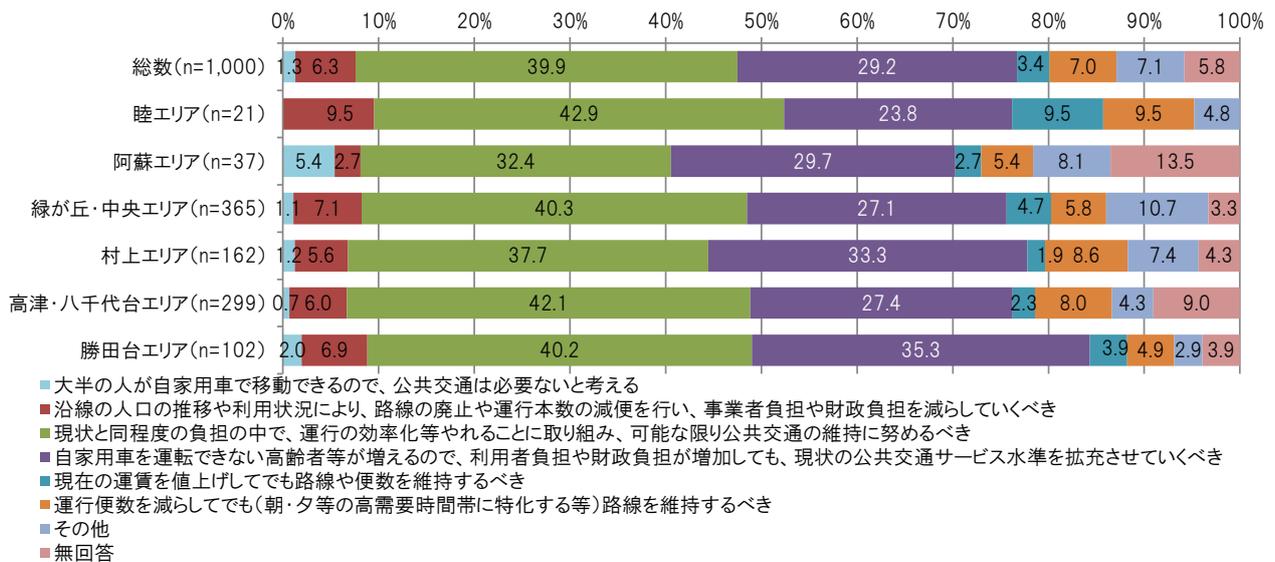


⑧八千代市地域公共交通の方向性

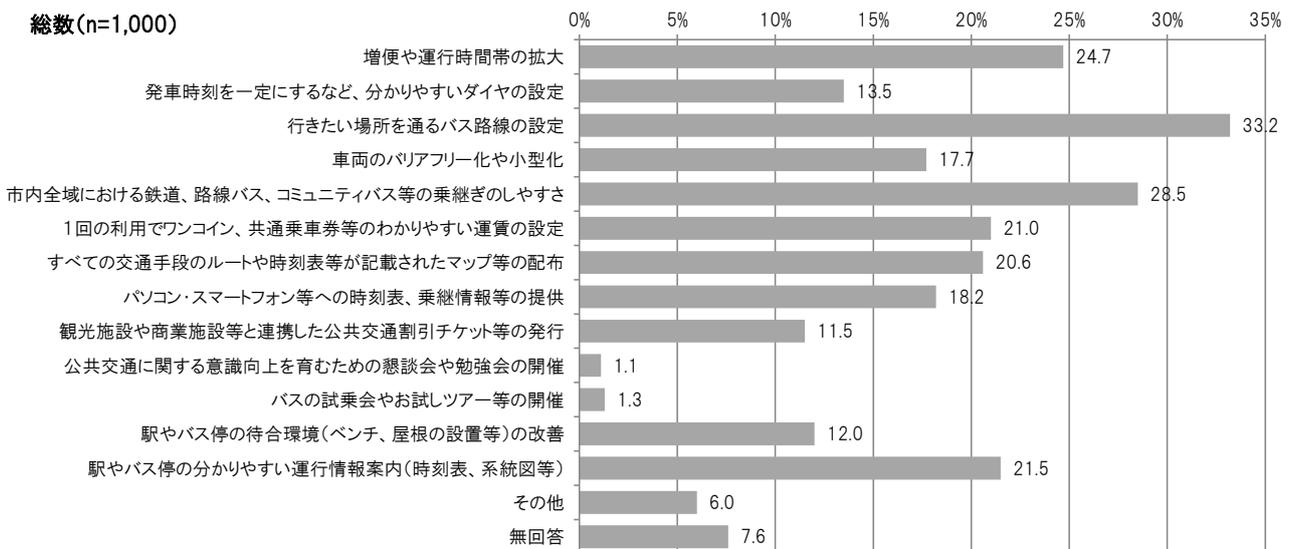
○今後の方向性として、「現状と同程度の負担の中で、運行の効率化等やれることに取り組み、可能な限り公共交通の維持に努めるべき」が39.9%と最も多く、次いで「自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき」が29.2%となっています。

○利用者を増やすための効果的な取り組みとして、「行きたい場所を通る路線の設定」が33.2%と最も多く、次いで「市内全域における鉄道、路線バス、コミュニティバス等の乗継ぎのしやすさ」が28.5%、「増便や運行時間帯の拡大」が24.7%となっています。

■望ましい方向性



■利用促進策



(2)北部地域住民アンケート調査

■調査概要

対象者	・15歳以上の北部地域の在住者500人(無作為抽出) (対象地域:桑橋, 神久保, 小池, 真木野, 佐山, 平戸, 島田, 島田台, 桑納, 麦丸, 米本, 保品, 下高野, 神野, 堀の内, 尾崎, 大学町)						
主な調査項目	・属性(居住地, 年齢, 職業, 運転免許証保有状況及び運転免許証返納意向) ・日常生活の移動実態, 生活利便施設の利用実態と意識・要望 ・地域に必要な交通手段(新たな地域公共交通の可能性) ・新たな地域公共交通の利用意向(行きたい場所, 目的, 頻度, 利用時間帯)						
調査方法	・郵送による配布・回収(料金受取人払い), Webによる回答を併用						
調査期間	・令和5年4月10日(月)~4月28日(金)						
回答数	・N=189(回収率37.8%) <<速報値>>						
内訳	性別	属性	実数	割合	属性	実数	割合
		男性	79	42.6(%)	女性	106	56.6(%)
	その他	0	0.0(%)	無回答	4	2.1(%)	
	年齢	10歳代	5	2.6(%)	20歳代	4	2.1(%)
		30歳代	10	5.3(%)	40歳代	20	10.6(%)
		50歳代	26	13.8(%)	60~64歳	13	6.9(%)
		65~69歳	23	12.2(%)	70歳代	59	31.2(%)
		80歳代以上	29	15.3(%)	無回答	0	0.0(%)
		職業	会社員・公務員	38	20.1(%)	自営業	8
	農林水産業		2	1.1(%)	学生	6	3.2(%)
	専業主婦(夫)		28	14.8(%)	パート・アルバイト	38	20.1(%)
	無職(年金生活含む)		65	34.4(%)	その他	4	2.1(%)
	無回答		0	0.0(%)			
	地区	睦エリア	70	37.0(%)	阿蘇エリア	117	61.9(%)
無回答		2	1.1(%)				

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため, 合計値が100%とならない場合があります。

①買い物時の移動

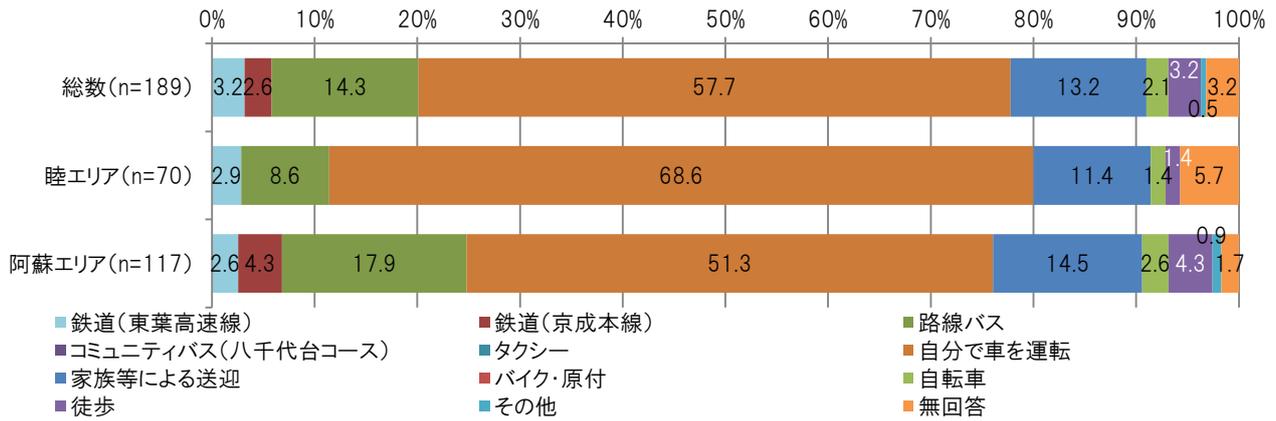
○買い物時の移動手段としては、「自分で車を運転」が57.7%と最も多く、「家族等による送迎」も含めると7割以上の方が自家用車による移動となっています。

○また、公共交通機関の利用率は20.1%となっています。

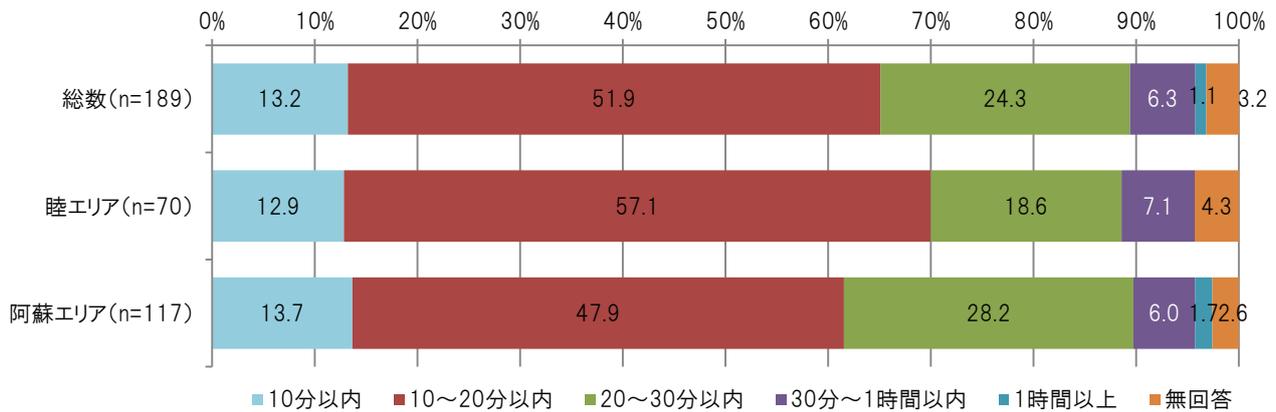
○最も利用する施設までの所要時間は、「10～20分以内」で半数以上を占めており、片道30分圏内の施設へ行かれている方が9割程度となっています。

○買い物時の移動における不便さとしては、「不便を感じている」と回答した方が25.9%となっています。

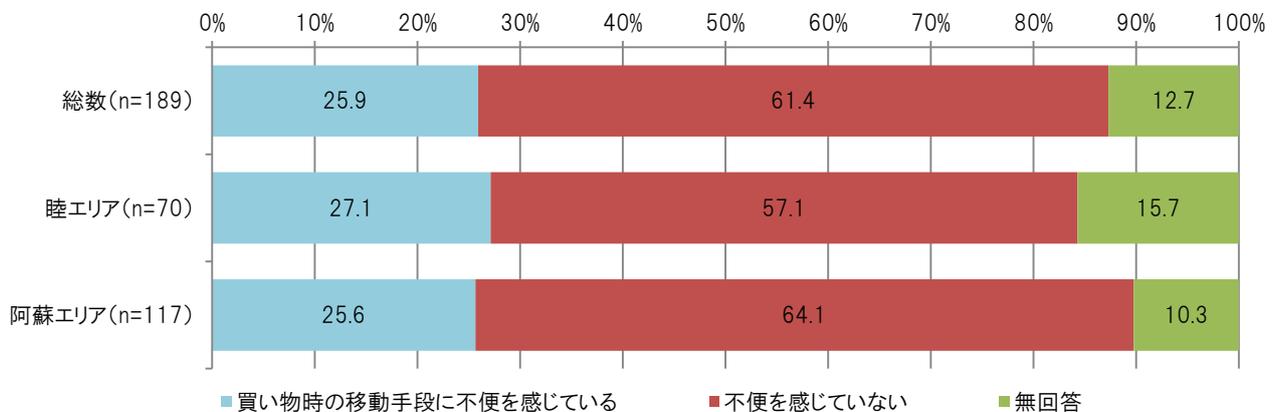
■最も利用する交通手段



■最も利用する施設までの所要時間



■不便さ



②通院時の移動

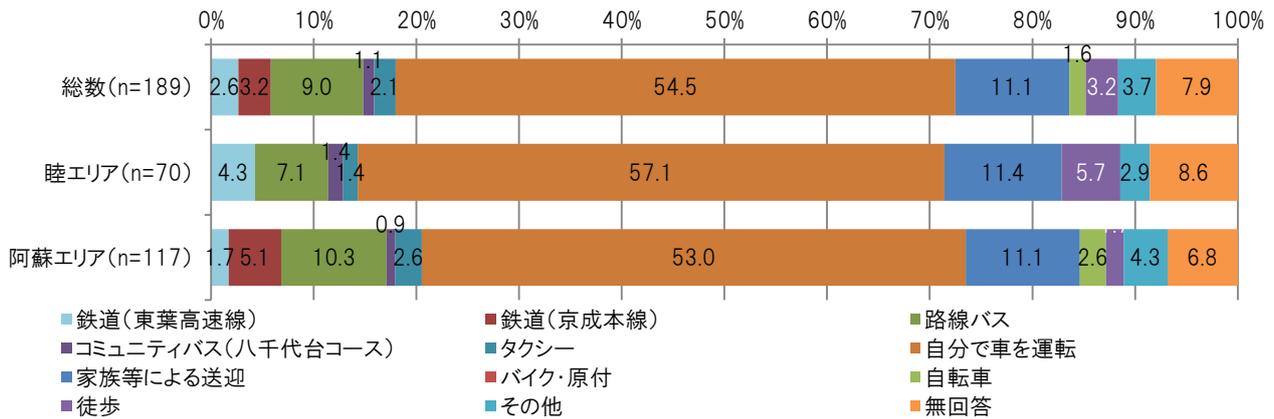
○通院時の移動手段としては、「自分で車を運転」が54.5%と最も多く、「家族等による送迎」も含めると7割近い方が自家用車による移動となっています。

○また、公共交通機関の利用率は18.0%となっており、買い物時と比較すると2.1ポイント減少しています。

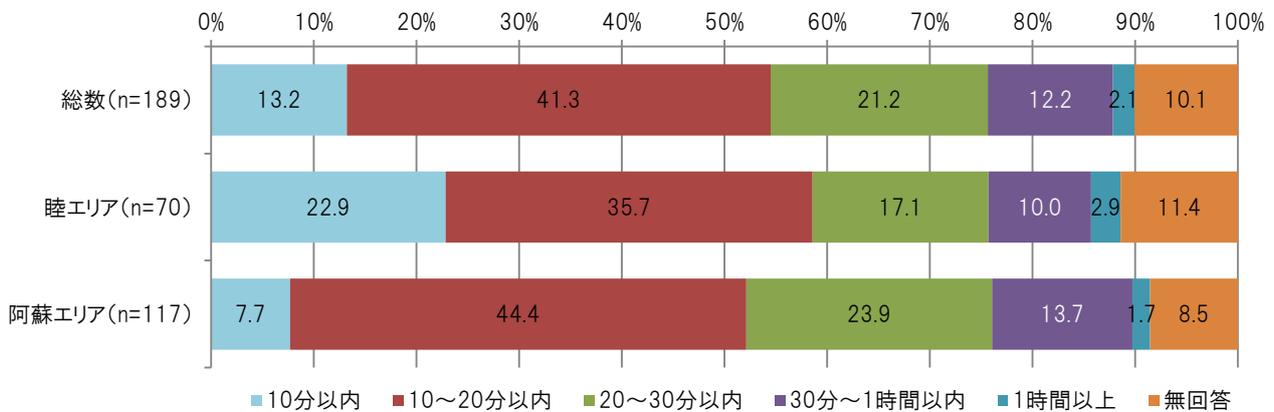
○最も利用する施設までの所要時間は、「10～20分以内」で4割程度を占めており、片道30分圏内の施設へ行かれている方が75.7%となっています。

○通院時の移動における不便さとしては、「不便を感じている」と回答の方が18.0%となっており、買い物時と比較すると7.9ポイント減少しています。

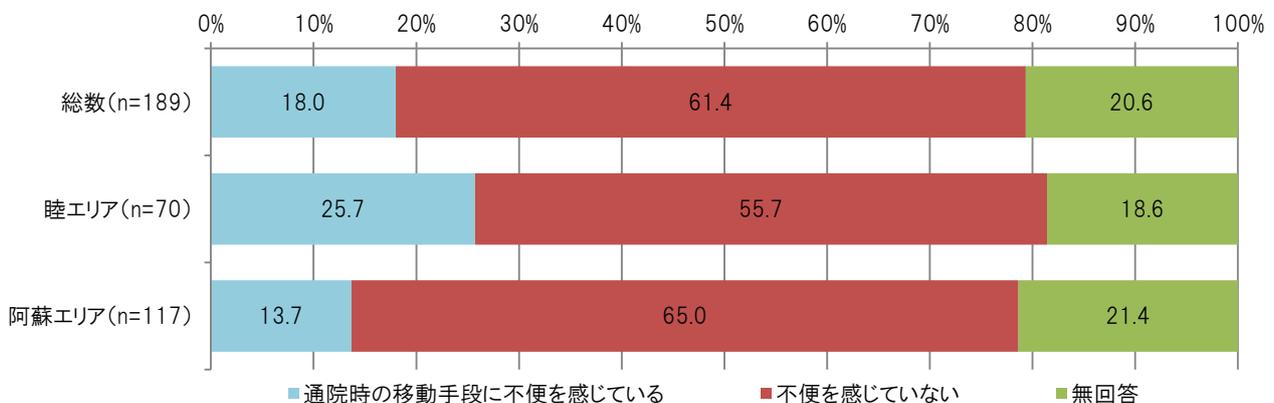
■最も利用する交通手段



■最も利用する施設までの所要時間



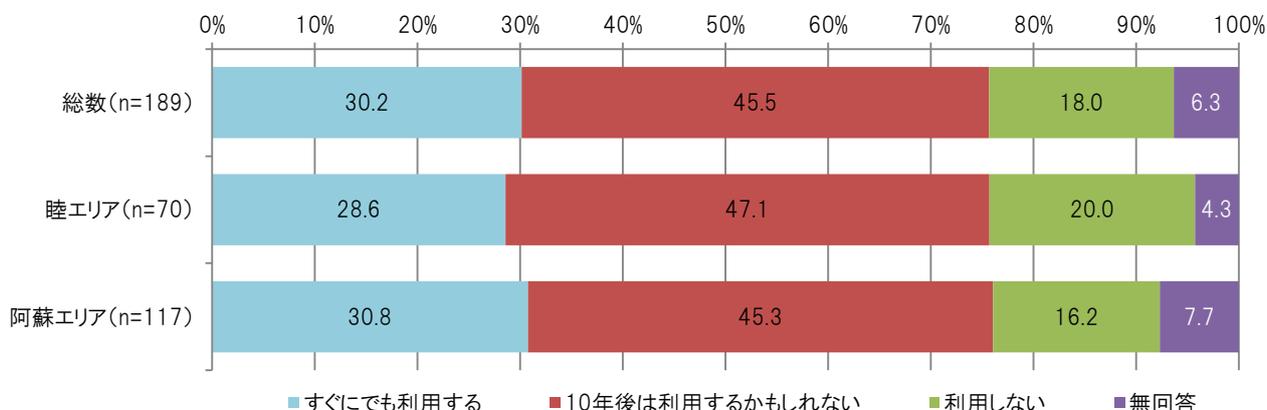
■不便さ



③買い物・通院のためのバスを導入した際の利用意向

○買い物・通院のためのバスを導入した際の利用意向として、「10年後は利用するかもしれない」との回答が45.5%と最も多く、次いで「すぐにでも利用する」が30.2%となっています。

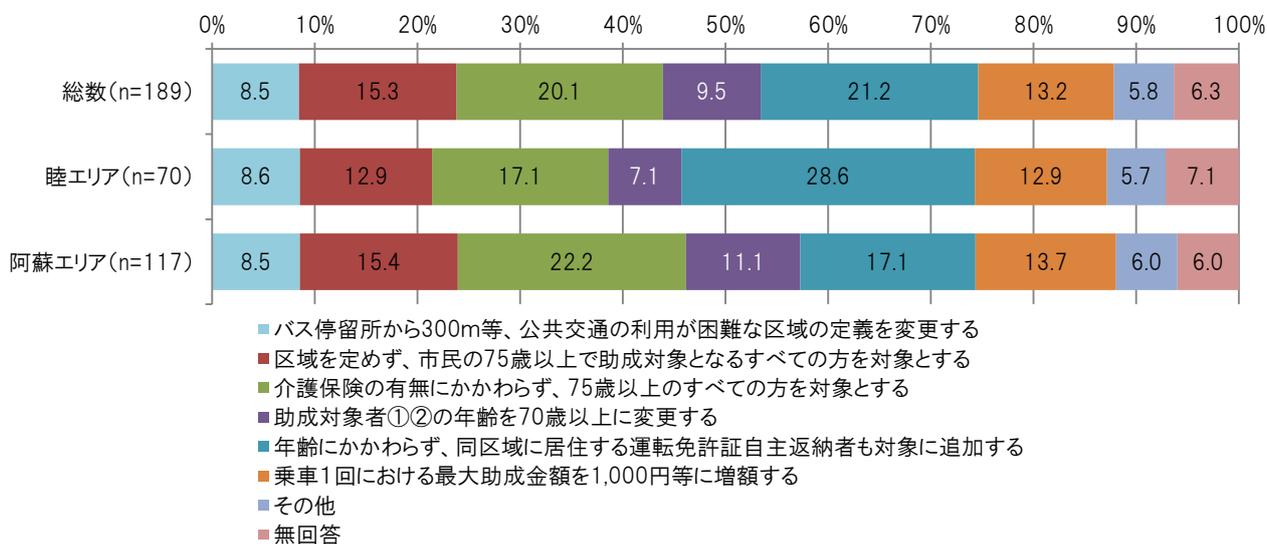
■利用意向



④高齢者外出支援事業のサービス拡大について

○市で実施している高齢者外出支援事業のサービスについて、拡大を望んでいる条件としては「年齢にかかわらず、同区域に居住する運転免許証自主返納者も対象に追加する」が21.2%と最も多く、次いで「介護保険の有無にかかわらず、75歳以上のすべての方を対象とする」が20.1%となっています。

■望ましい条件

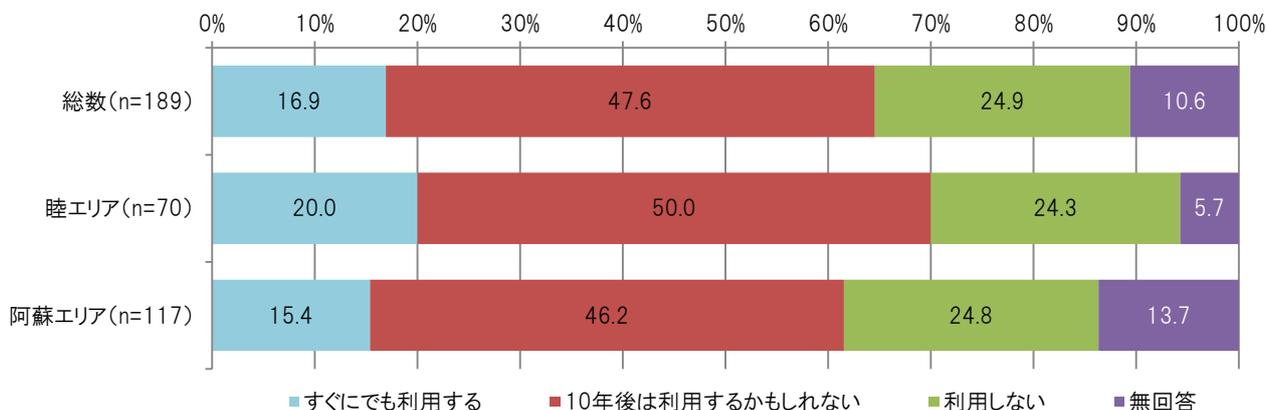


⑤新しい移動手段の導入

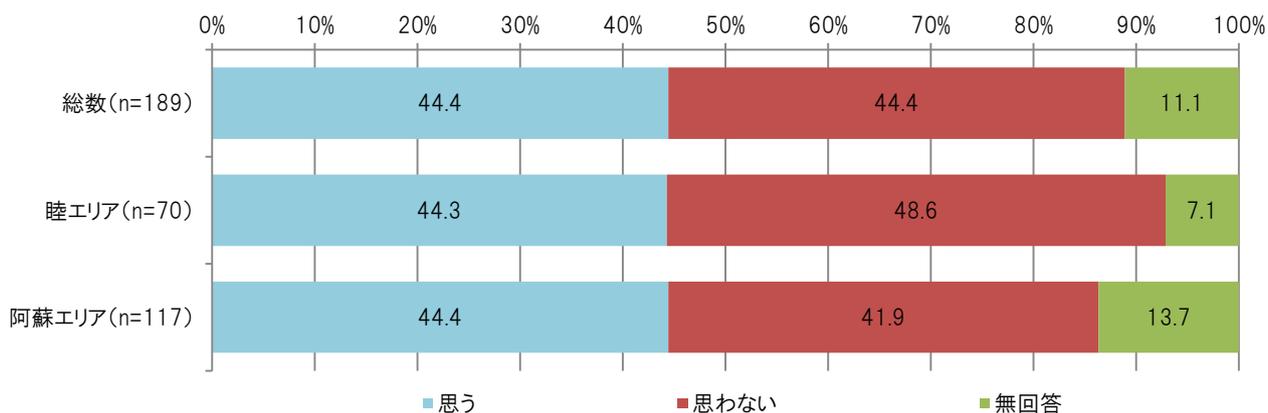
○新しい移動手段の導入として、デマンド交通の利用意向は「10年後は利用するかもしれない」との回答が47.6%と最も多く、次いで「利用しない」が24.9%となっています。

○一方で、住んでいる地域で話し合い、自分たちで運行ルートや運行本数を模索し、町会費等で地域の交通を確保するような地域住民主体の取組みでは、「必要だと思う」「必要ないと思う」との回答がどちらも44.4%となっています。

■デマンド交通の利用意向



■地域住民主体の機運



(3)公共交通利用者アンケート調査**■調査概要**

対象者	・市内の公共交通機関(鉄道, 路線バス, タクシー)を利用している方
主な調査項目	・利用者属性(性別・年齢・居住地), OD※1 ・利用特性(端末手段, 利用目的, 頻度) ・運行サービスに対する満足度(便数・運行時間帯・行先・運賃等) ・改善してほしいサービス(行先・運行日・運行本数等)
調査方法	・鉄道 各駅に二次元バーコードの張り紙を設置し Web アンケート ・路線バス 一部のバス停留所及びバス車両に二次元バーコードの張り紙を設置し Web アンケート ・タクシー 一部の車両に二次元バーコードの張り紙を設置し Web アンケート
調査期間	・鉄道 令和5年4月29日～令和5年5月31日 ・路線バス 令和5年4月25日～令和5年5月31日 ・タクシー 令和5年5月3日～令和5年5月31日
回答数	・鉄道 n=87 ・路線バス n=77 ・タクシー n=14 ※5月18日までの速報値

※1:ある地点(A)から他の地点(B)へ移動する交通流動量のこと。

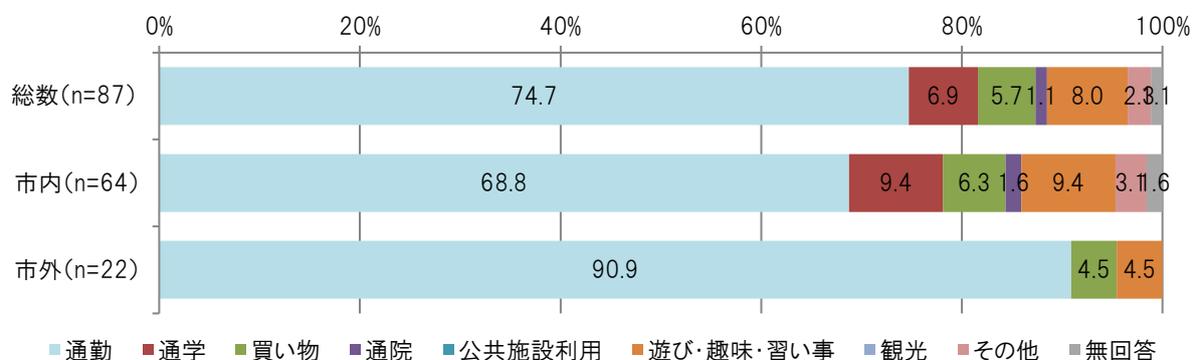
①鉄道利用者アンケート調査

- 回答者は男性が70.1%, 女性が26.4%を占めており, 年齢は30歳代の回答が最も多く, 次いで40歳代, 20歳代となっています。また居住地は, 市内が73.6%, 市外が25.3%となっています。
- 利用目的は, 「通勤」が最も多く, 「買い物」や「遊び・趣味・習い事」での利用も多くなっています。また, 市内では「通学」利用も多くなっています。
- 利用頻度は, 「週に5日以上」が65.5%と最も多く, 次いで「週に3～4日」が20.7%となっています。
- 駅までの端末交通手段としては, 「徒歩」が67.8%と最も多く, 次いで「自転車」が19.5%, 「路線バス」が8.0%となっています。
- 鉄道利用者の満足度については, 「運行ルート」や「到着時間の正確さ」では比較的満足度が高い一方, 「運賃」, 「他の交通機関との乗り継ぎのしやすさ」は満足度が低く, 特に「運賃」は不満度が6割を超えています。
- 改善要望ありと回答した23名全員が, 「運行本数の増便」を望んでいます。

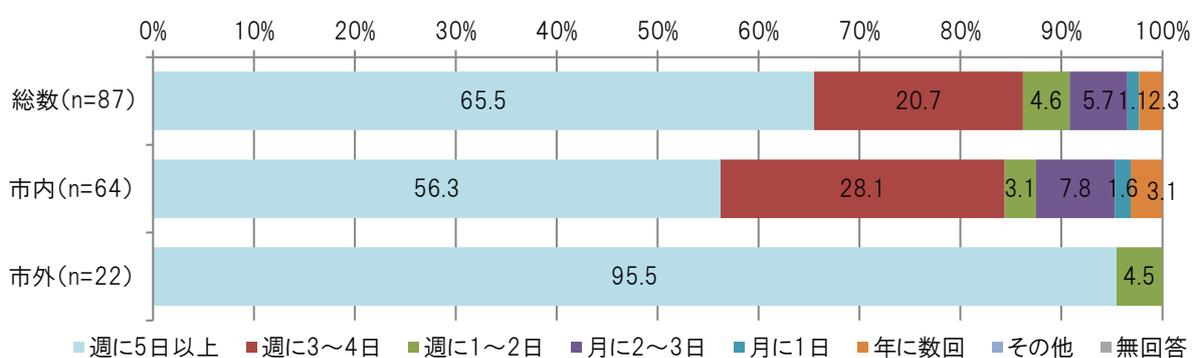
■回答内訳

	属性	実数	割合	属性	実数	割合
性別	男性	61	70.1%	女性	23	26.4%
	その他	2	2.3%	無回答	1	1.1%
年齢	10歳代	5	5.7%	20歳代	18	20.7%
	30歳代	28	32.2%	40歳代	20	23.0%
	50歳代	10	11.5%	60～64歳	3	3.4%
	65～69歳	2	2.3%	70歳代	1	1.1%
	80歳代以上	0	0.0%	無回答	0	0.0%
	居住地	市内	64	73.6%	市外	22
	無回答	1	1.1%			

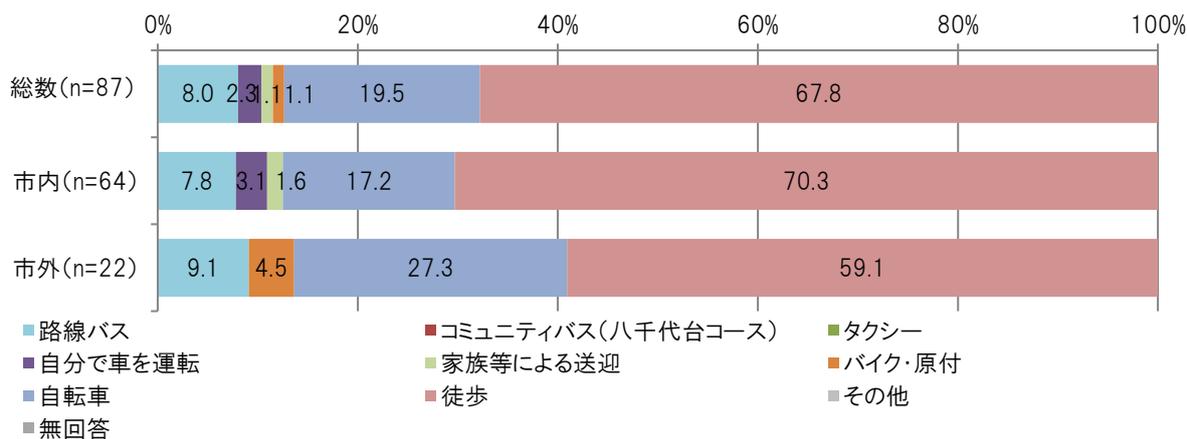
■利用目的



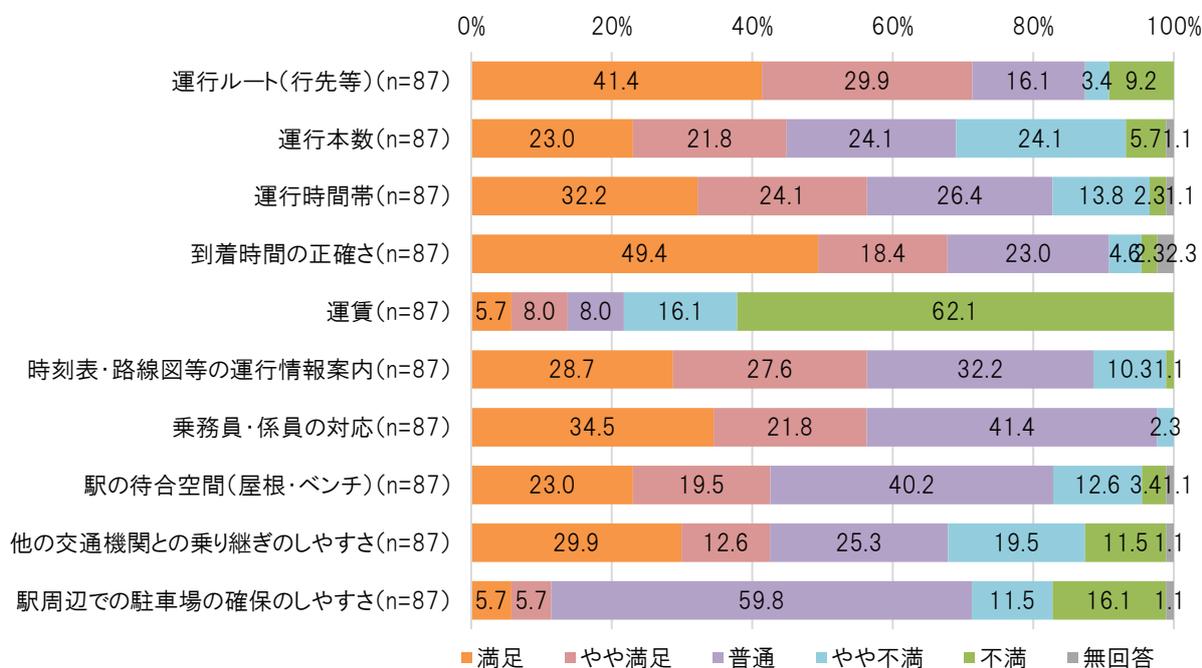
■利用頻度



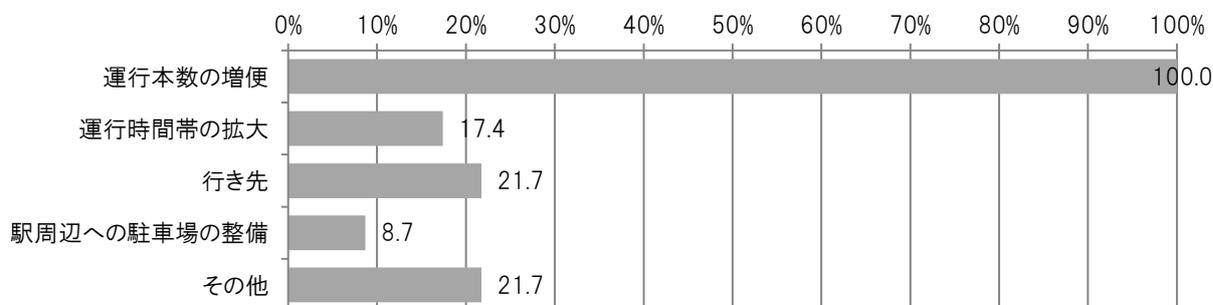
■ 駅までの端末交通手段



■ 満足度



■ 要望(n=23)



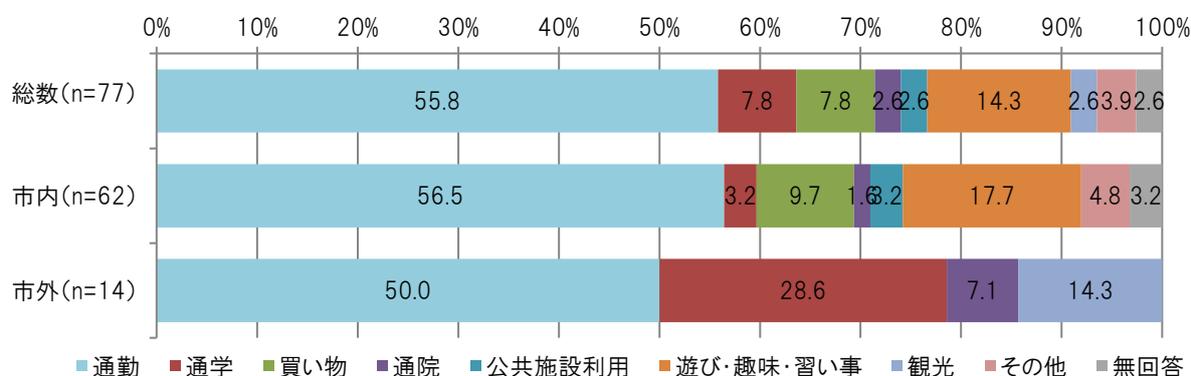
②路線バス利用者アンケート調査

- 回答者は、男性が63.6%、女性が36.4%を占めており、年齢は40歳代の回答が最も多く、次いで50歳代、30歳代となっています。居住地は、市内が80.5%、市外が18.2%となっています。
- 利用目的は、「通勤」が55.8%と最も多く、次いで「遊び・趣味・習い事」が14.3%、「通学」が7.8%となっています。また市外では、通勤・通学での利用が約8割を占めています。
- 利用頻度は、「週に5日以上」が41.6%と最も多く、次いで「週に1～2日」が19.5%、「週に3～4日」が13.0%となっています。
- バス停までの端末交通手段としては、「徒歩」が81.8%と最も多く、次いで「鉄道」が14.3%となっています。
- 路線バス利用者の満足度については、「運行ルート」、「乗務員の対応」、「運賃」、「所要時間」では比較的満足度が高い一方、「運行本数」、「バス停留所の待合空間」、「運行時間帯」は満足度が低く、不満足度が高い傾向となっています。
- 改善要望ありと回答した27名全員が、「運行本数の増便」を望んでおり、「運行時間帯の拡大」「行き先」についても3割以上の方が望んでいます。

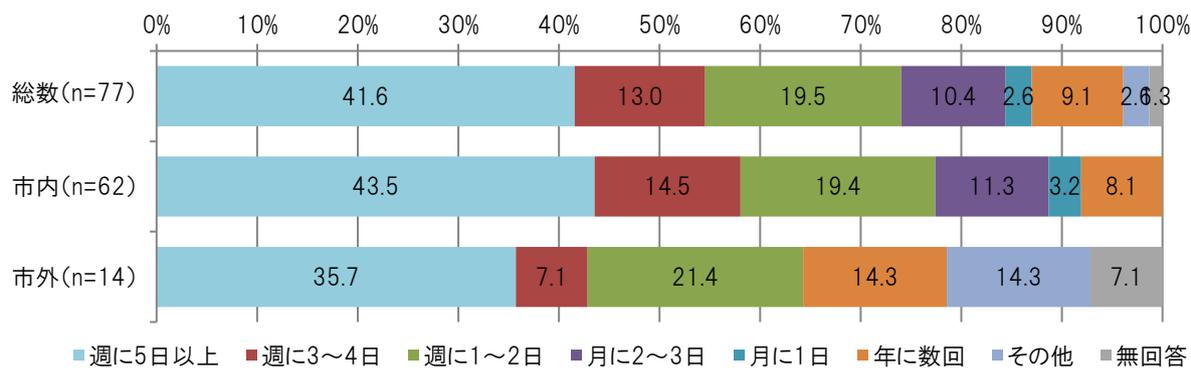
■回答内訳

	属性	実数	割合	属性	実数	割合
性別	男性	49	63.6%	女性	28	36.4%
	その他	0	0.0%	無回答	0	0.0%
年齢	10歳代	5	6.5%	20歳代	9	11.7%
	30歳代	11	14.3%	40歳代	27	35.1%
	50歳代	18	23.4%	60～64歳	4	5.2%
	65～69歳	2	2.6%	70歳代	1	1.3%
	80歳代以上	0	0.0%	無回答	0	0.0%
居住地	市内	62	80.5%	市外	14	18.2%
	無回答	1	1.3%			

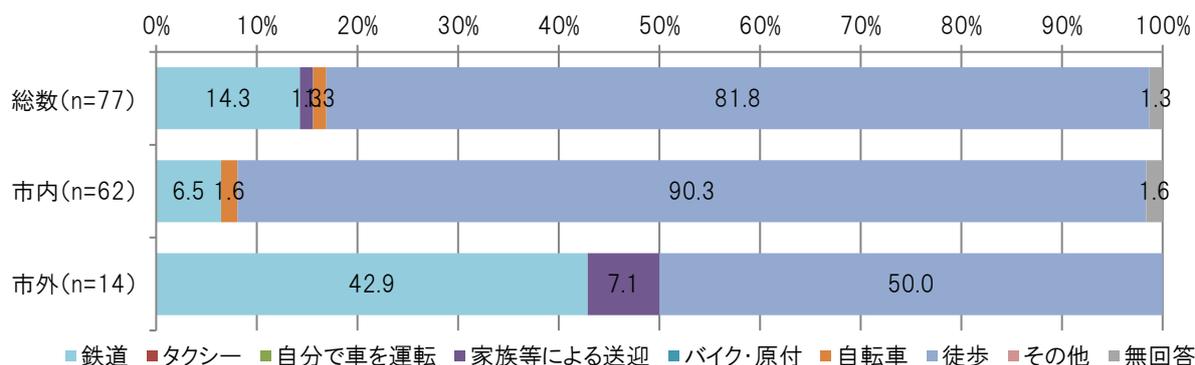
■利用目的



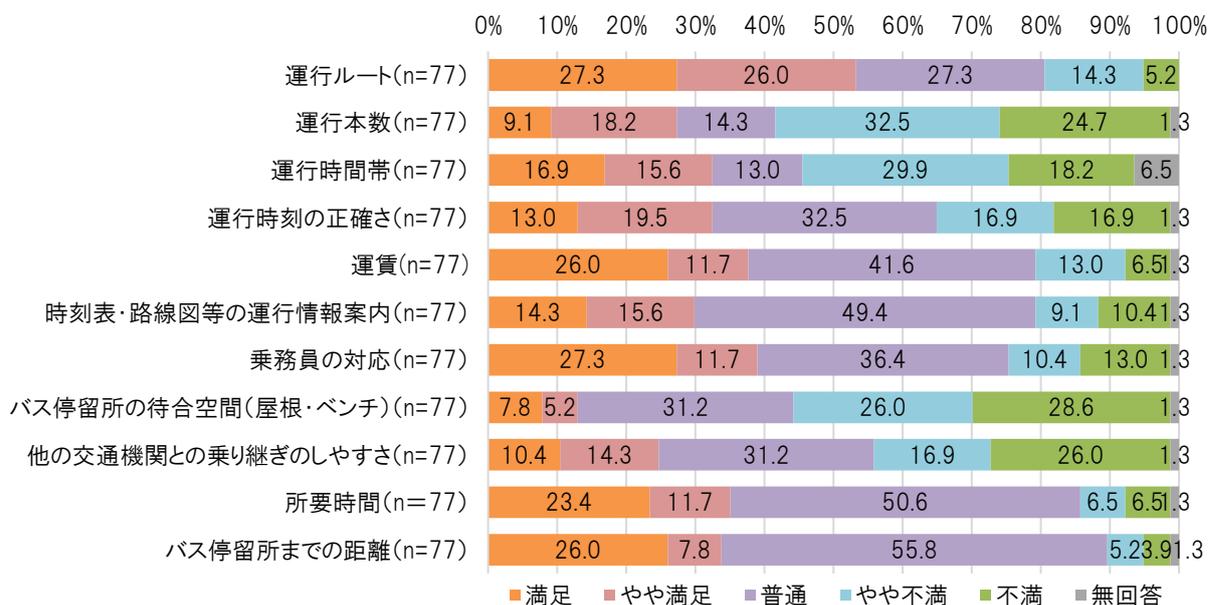
■ 利用頻度



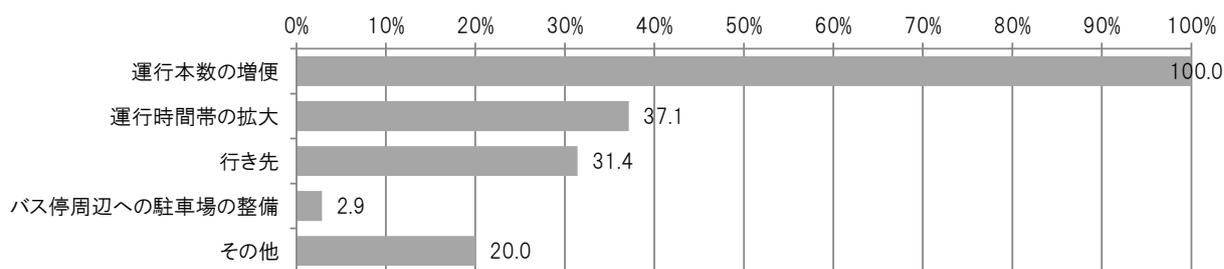
■ バス停までの端末交通手段



■ 満足度



■ 要望(n=27)



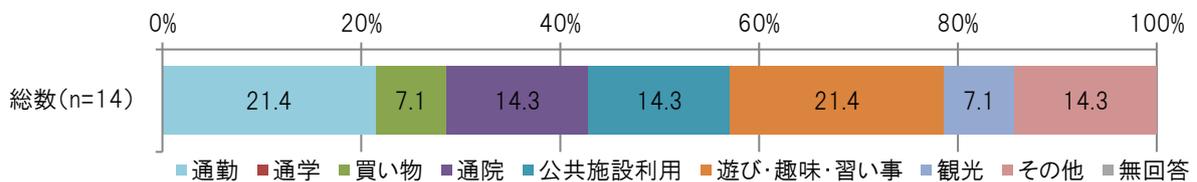
③タクシー利用者アンケート調査

- 回答者は、男性が57.1%、女性が42.9%を占めており、年齢は40歳代の回答が最も多く、次いで30歳代と50歳代となっています。居住地は、市内が92.9%、市外が7.1%となっています。
- 利用目的は、「通勤」及び「遊び・趣味・習い事」が21.4%と最も多く、次いで「通院」「公共施設利用」が14.3%となっています。
- 利用頻度は、「年に数回」が42.9%と最も多く、次いで「月に2～3日」が35.7%となっています。
- タクシー利用者の満足度については、「目的地までの速さ」、「車両の乗り心地・乗り降りのしやすさ」で比較的満足度が高い一方、「配車依頼時の迅速さ」、「運転手の対応」で不満足度が高い傾向となっています。

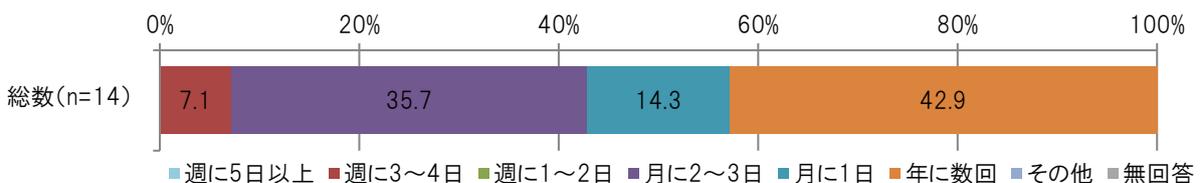
■回答内訳

	属性	実数	割合	属性	実数	割合
性別	男性	8	57.1%	女性	6	42.9%
	その他	0	0.0%	無回答	0	0.0%
年齢	10歳代	0	0.0%	20歳代	1	7.1%
	30歳代	3	21.4%	40歳代	5	35.7%
	50歳代	3	21.4%	60～64歳	1	7.1%
	65～69歳	1	7.1%	70歳代	0	0.0%
	80歳代以上	0	0.0%	無回答		
	居住地	市内	13	92.9%	市外	1
	無回答	0	0.0%			

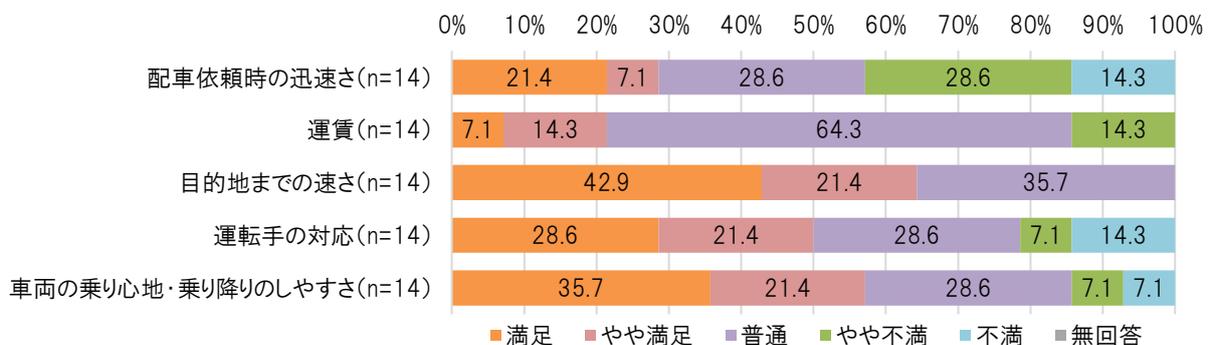
■利用目的



■利用頻度



■満足度



地域公共交通計画に係る事業の方向性について

今後、地域公共交通計画に位置づける具体的な事業を検討していくにあたり、これまでの八千代市における公共交通の課題分析をふまえた下記を方向性とし、今回のアンケート調査や事業者ヒアリング等の結果もふまえた案を示してまいります。

- ① 路線バスを主体とした既存の交通サービスの維持, 向上
公共交通沿線地域(駅から800m圏内, バス停から300m圏内)内に, 人口の約90%が居住しており, 一定程度, 公共交通が発達した状況にあることから, こうした状況を将来的にも確保し続けるために, 既存の公共交通サービスの維持, 向上を目指した取り組みを検討。
- ② まちづくりと連携した今後の公共交通のあり方の検討
都市マスタープラン等をふまえ, まちづくりと連携した今後の公共交通のあり方を検討。
- ③ 高齢者等外出支援の拡充
交通に問題を抱えている高齢者等のいわゆる交通弱者にとっての支援策の拡充を検討。
- ④ 公共交通の利用促進に向けた啓発
公共交通の維持や環境負荷の軽減等を目指し, 公共交通の利用を促進するような取組を検討。
- ⑤ 公共交通の利便性向上に向けた環境整備
利用者の方がより使いやすく, 便利な地域公共交通となるように環境整備を推進。
- ⑥ 新たなモビリティサービスの調査・研究
グリーンスロー・モビリティやシェアサイクル, MaaSといった新たなモビリティサービスについて, 先進事例の調査・研究を行い, 本市における導入可能性等を検討